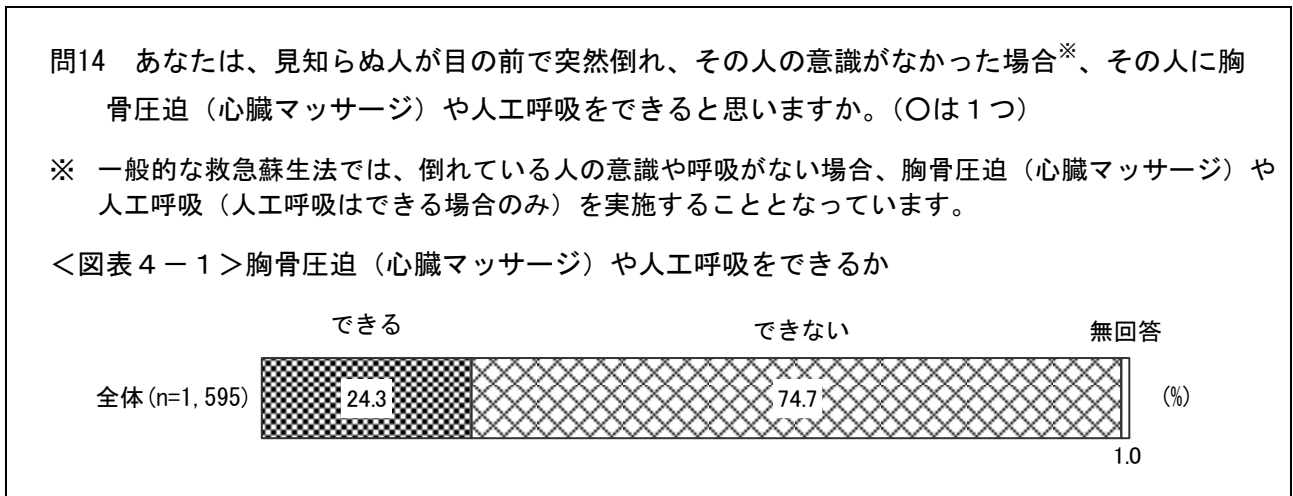


4 心肺蘇生法等について

(1) 胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか

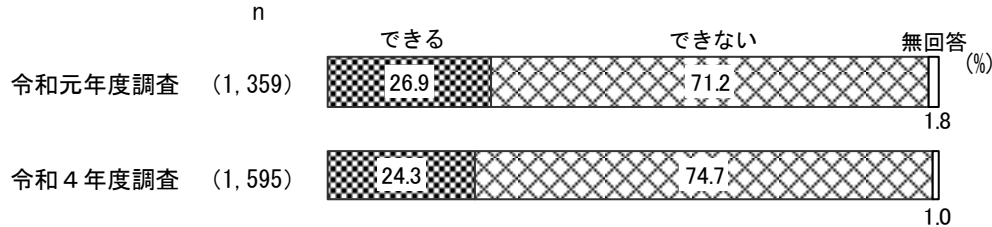
◇「できる」が2割台半ば



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸を出来ると思うか」と聞いたところ、「できる」（24.3%）が2割台半ばとなっている。一方、「できない」（74.7%）は7割台半ばとなっている。

（図表4-1）

〔参考〕 令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

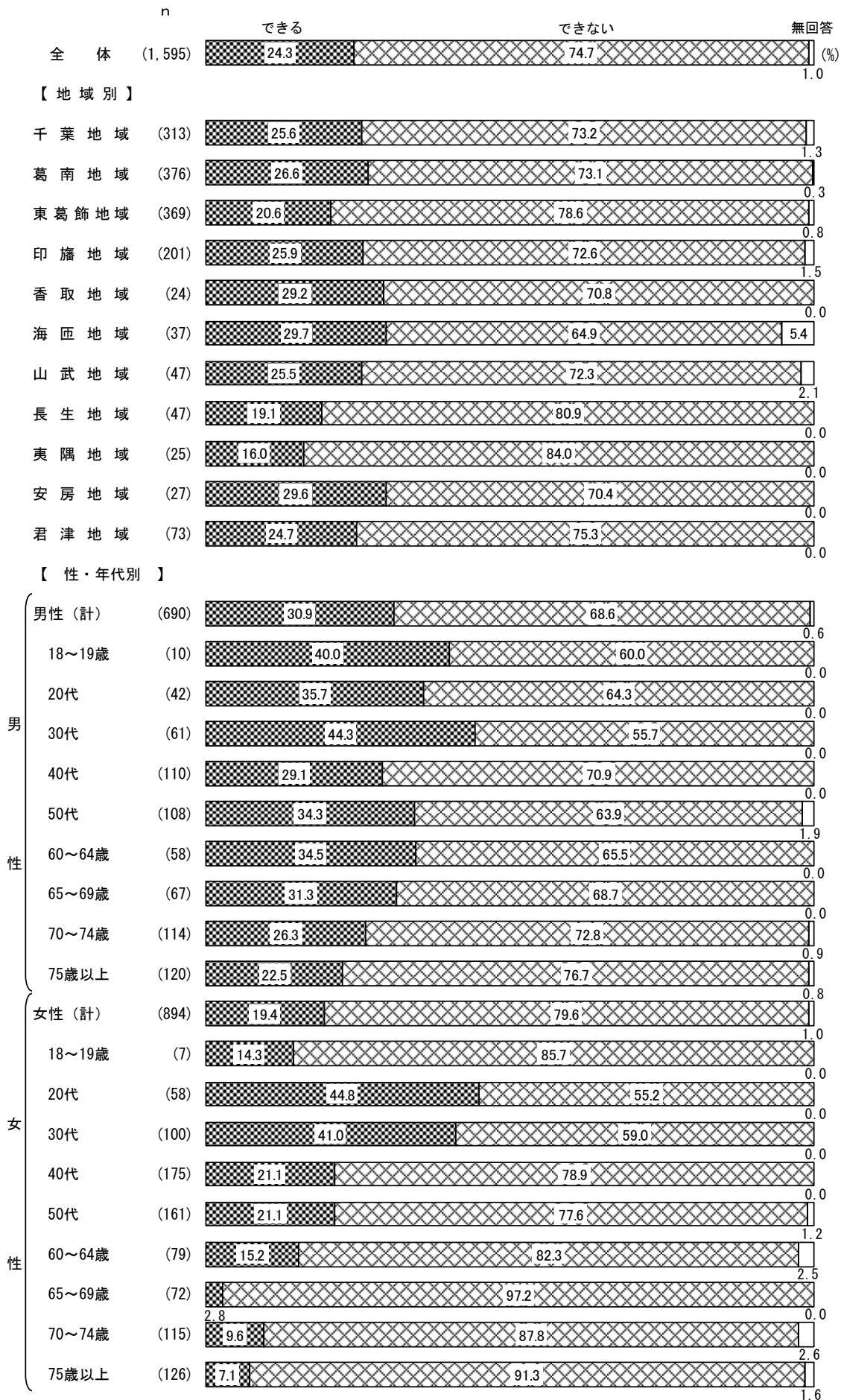
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表4-2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の20代（44.8%）と男性の30代（44.3%）が4割台半ば、女性の30代（41.0%）が4割を超え、男性の50代（34.3%）が3割台半ばと高くなっている。

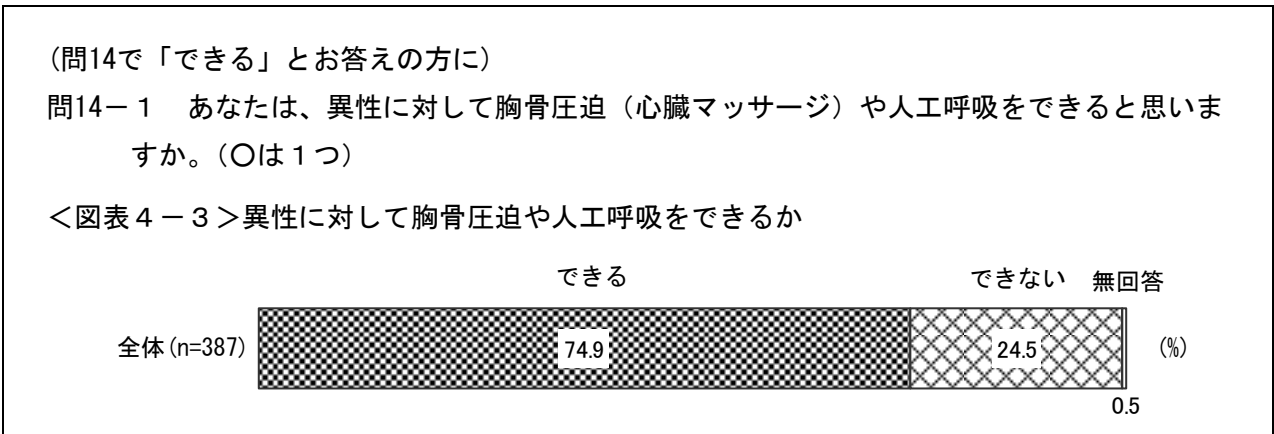
一方、「できない」は女性の65～69歳（97.2%）が約10割、女性の75歳以上（91.3%）が9割を超え、女性の70～74歳（87.8%）が約9割で高くなっている。（図表4-2）

＜図表4-2＞胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



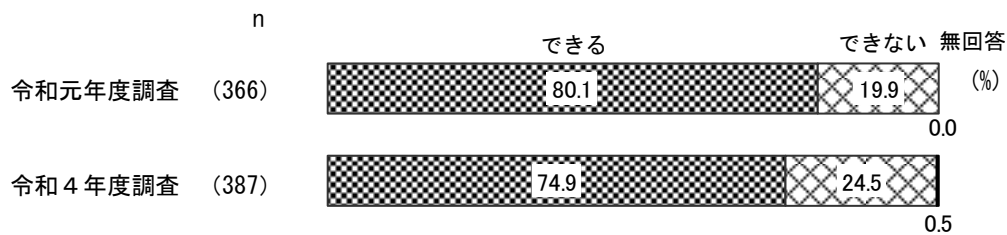
（1－1）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか

◇「できる」が7割台半ば



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできる」と回答した387人に、異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできると思うか聞いたところ、「できる」（74.9%）が7割台半ばとなっている。一方、「できない」（24.5%）は2割台半ばとなっている。（図表4－3）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）

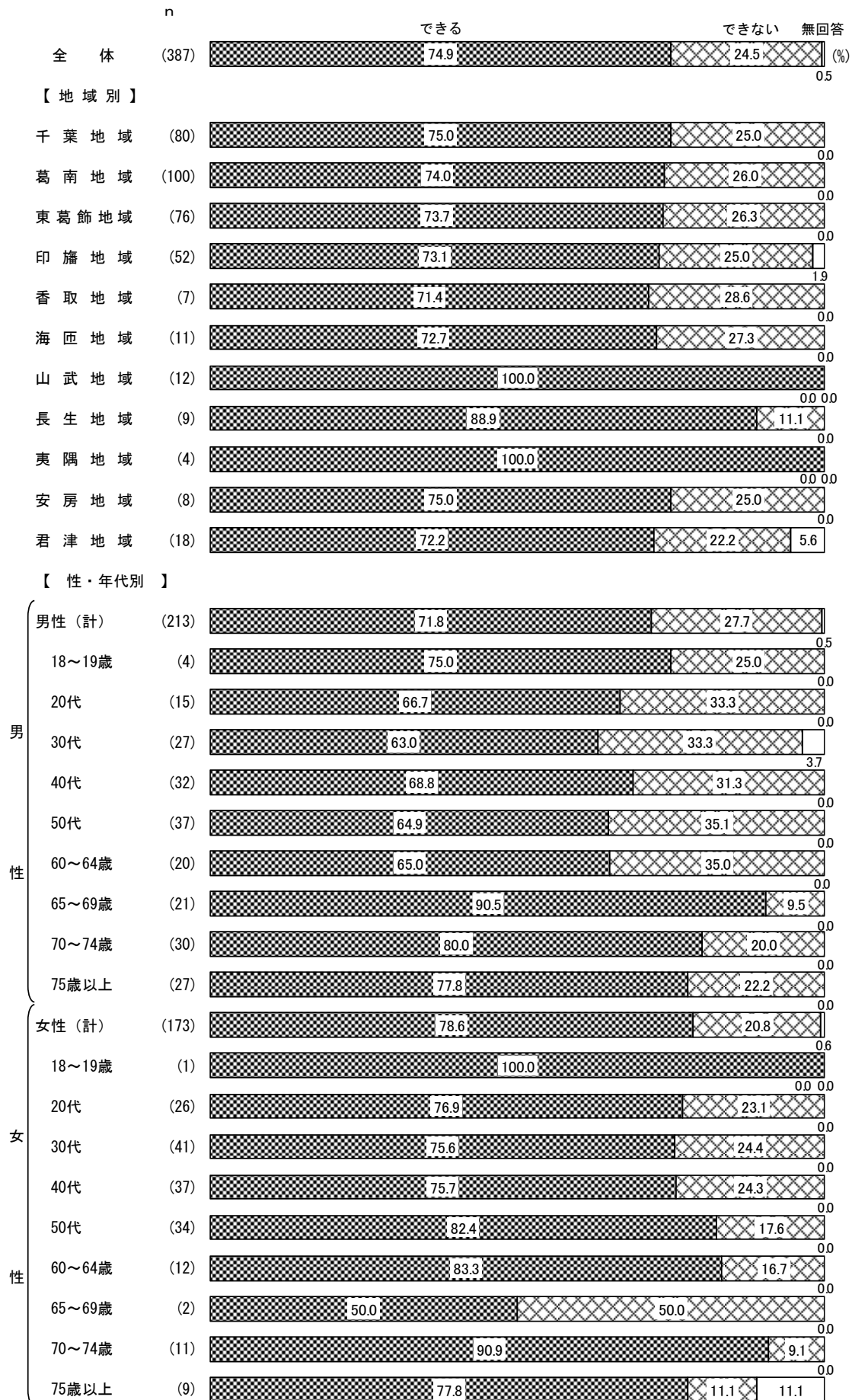


※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）

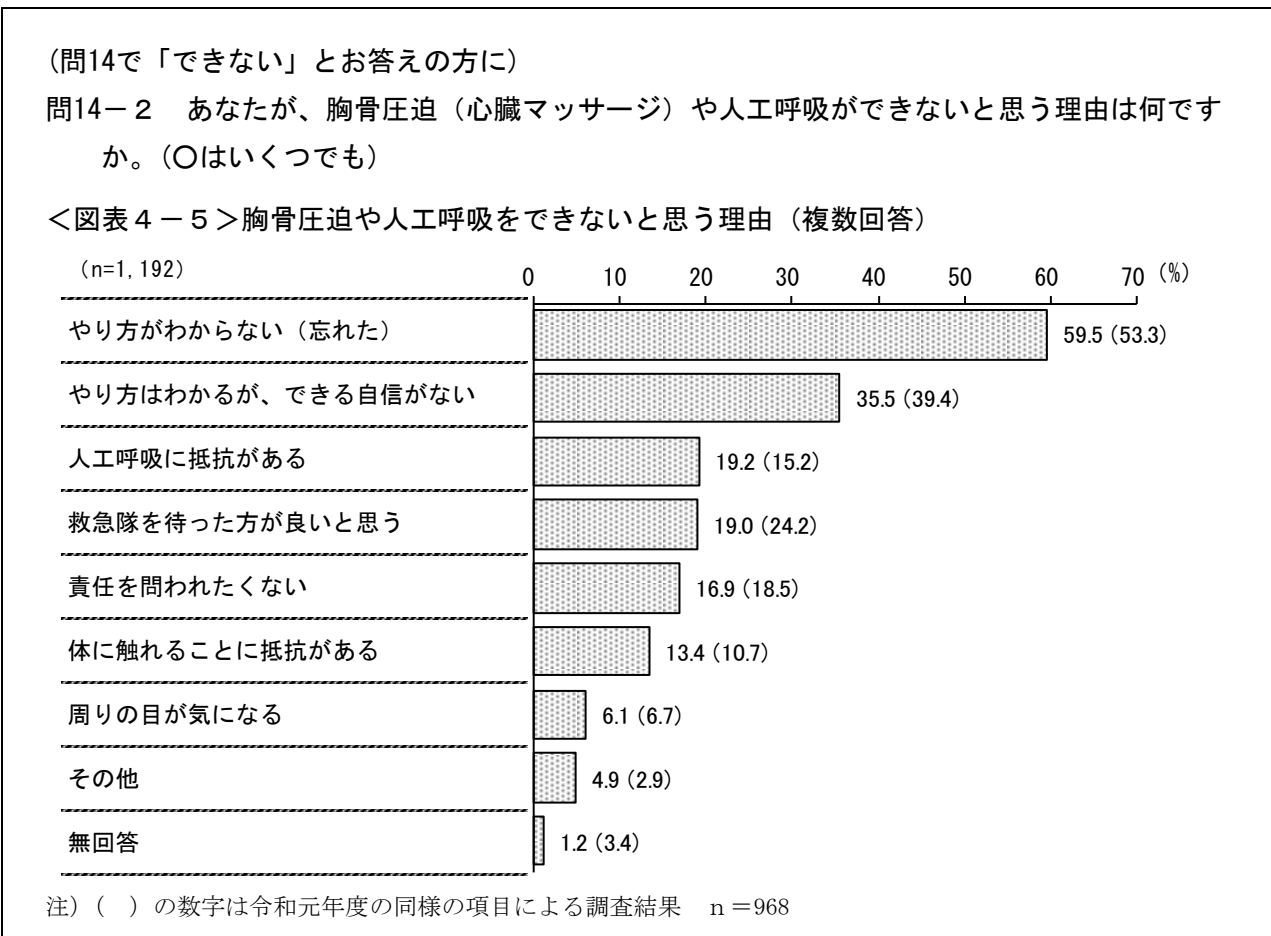
（図表4－4）

[参考] <図表4-4> 異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできるか／地域別、性・年代別



（1－2）胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

◇「やり方がわからない（忘れた）」が約6割



「胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできない」と回答した1,192人に、その理由を聞いたところ、「やり方がわからない（忘れた）」（59.5%）が約6割で最も高く、以下、「やり方はわかるが、できる自信がない」（35.5%）、「人工呼吸に抵抗がある」（19.2%）、「救急隊を待った方が良いと思う」（19.0%）と続く。（図表4－5）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表4－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「やり方がわからない（忘れた）」は男性の50代（75.4%）が7割台半ば、女性の70～74歳（69.3%）が約7割で高くなっている。

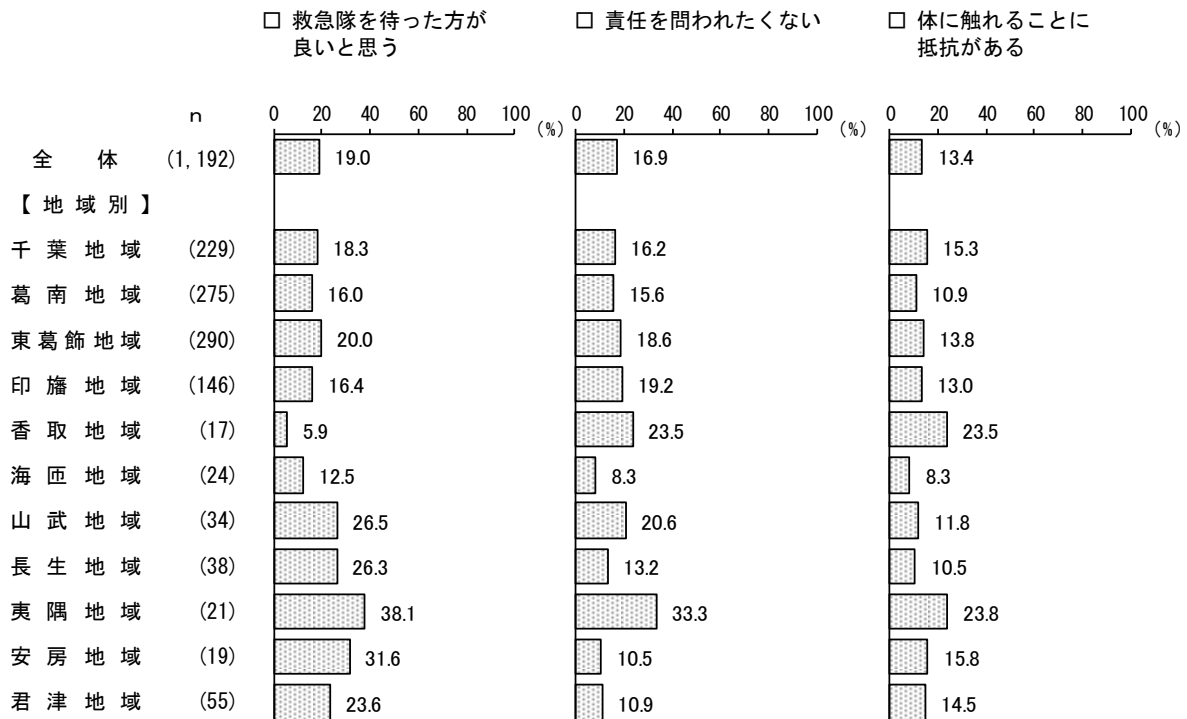
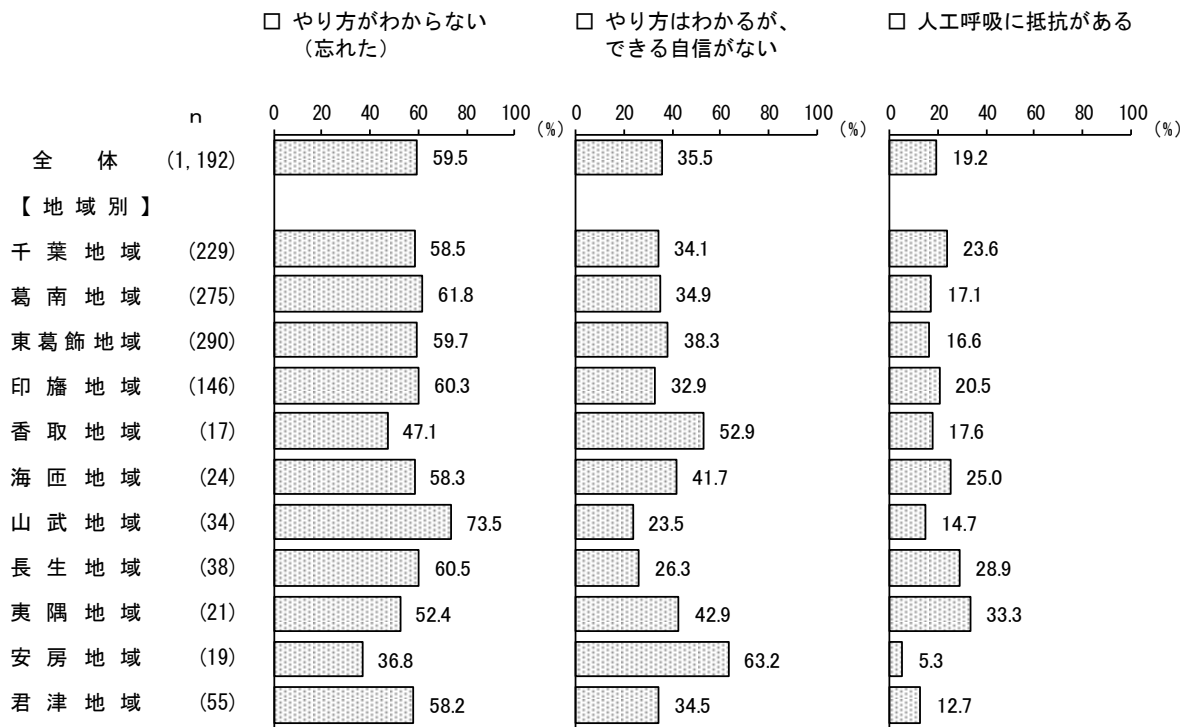
「やり方はわかるが、できる自信がない」は女性の30代（50.8%）が5割で高くなっている。

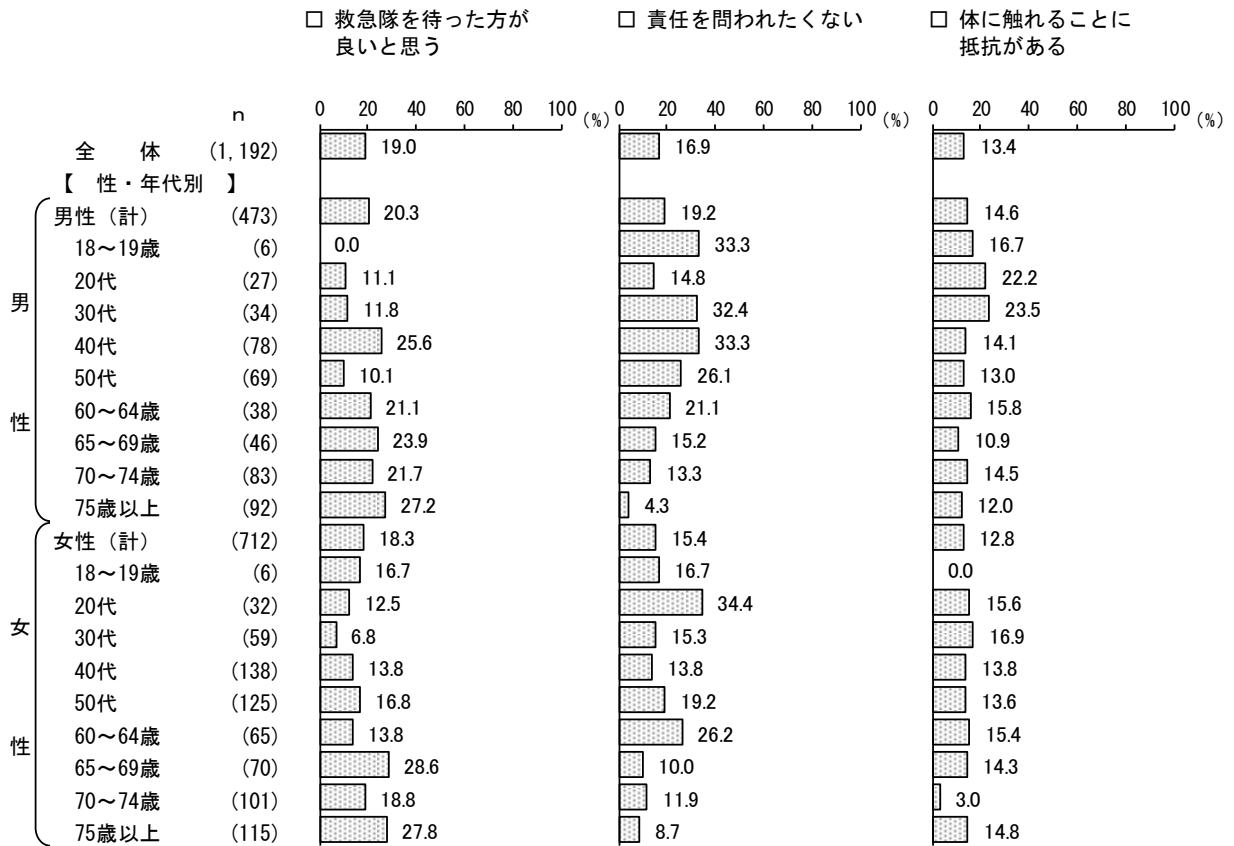
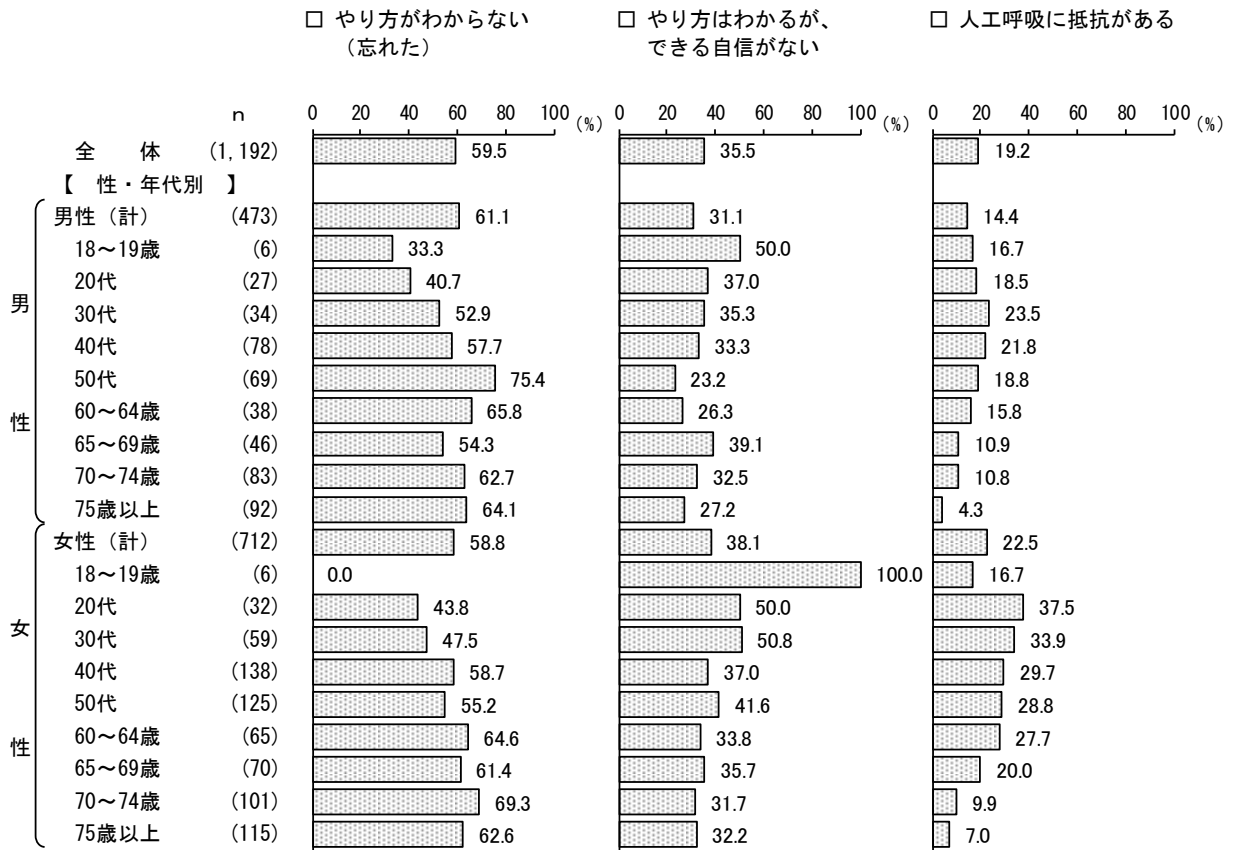
「人工呼吸に抵抗がある」は女性の20代（37.5%）が約4割、女性の30代（33.9%）が3割台半ば、女性の40代（29.7%）と女性の50代（28.8%）が約3割で高くなっている。

「救急隊を待った方が良いと思う」は女性の65～69歳（28.6%）、女性の75歳以上（27.8%）、男性の75歳以上（27.2%）が約3割で高くなっている。（図表4－6）

<図表4-6> 胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）





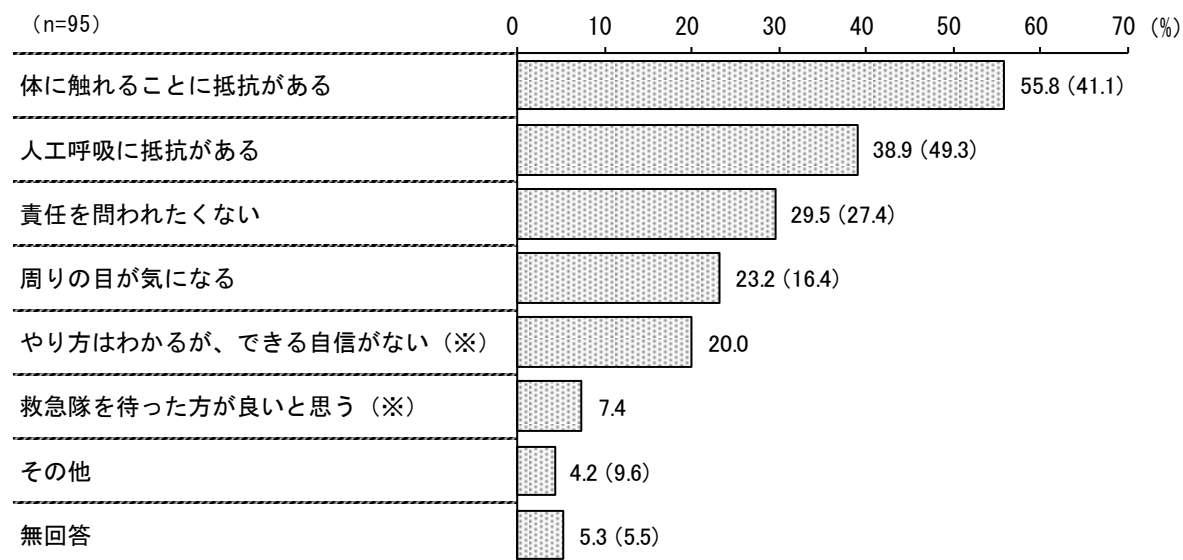
（1－3）異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由

◇「体に触れることに抵抗がある」が5割台半ば

（問14－1で「できない」とお答えの方に）

問14－3 あなたが、異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸ができないと思う理由は何ですか。（〇はいくつでも）

<図表4－7>異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）



注）（ ）の数字は令和元年度の同様の項目による調査結果 n=73

（※）今回調査からの新規項目

「異性に対して胸骨圧迫（心臓マッサージ）や人工呼吸をできない」と回答した95人に、その理由を聞いたところ、「体に触れることに抵抗がある」（55.8%）が5割台半ばと最も高く、以下、「人工呼吸に抵抗がある」（38.9%）、「責任を問われたくない」（29.5%）、「周りの目が気になる」（23.2%）と続く。（図表4－7）

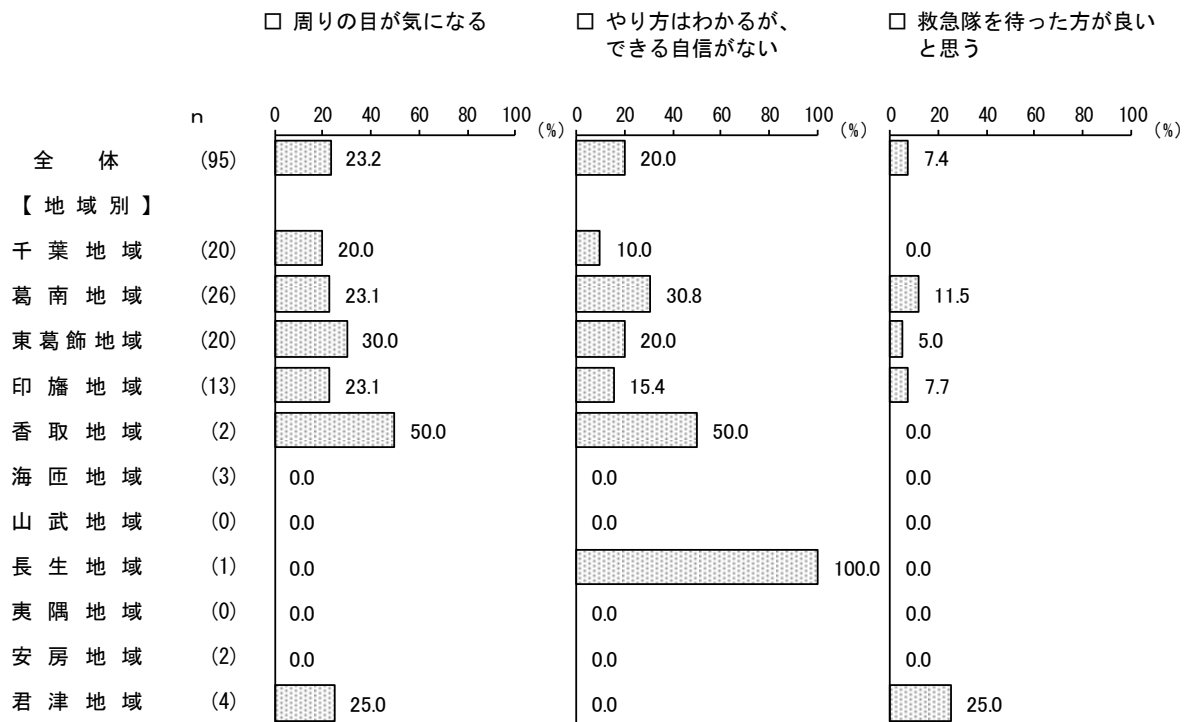
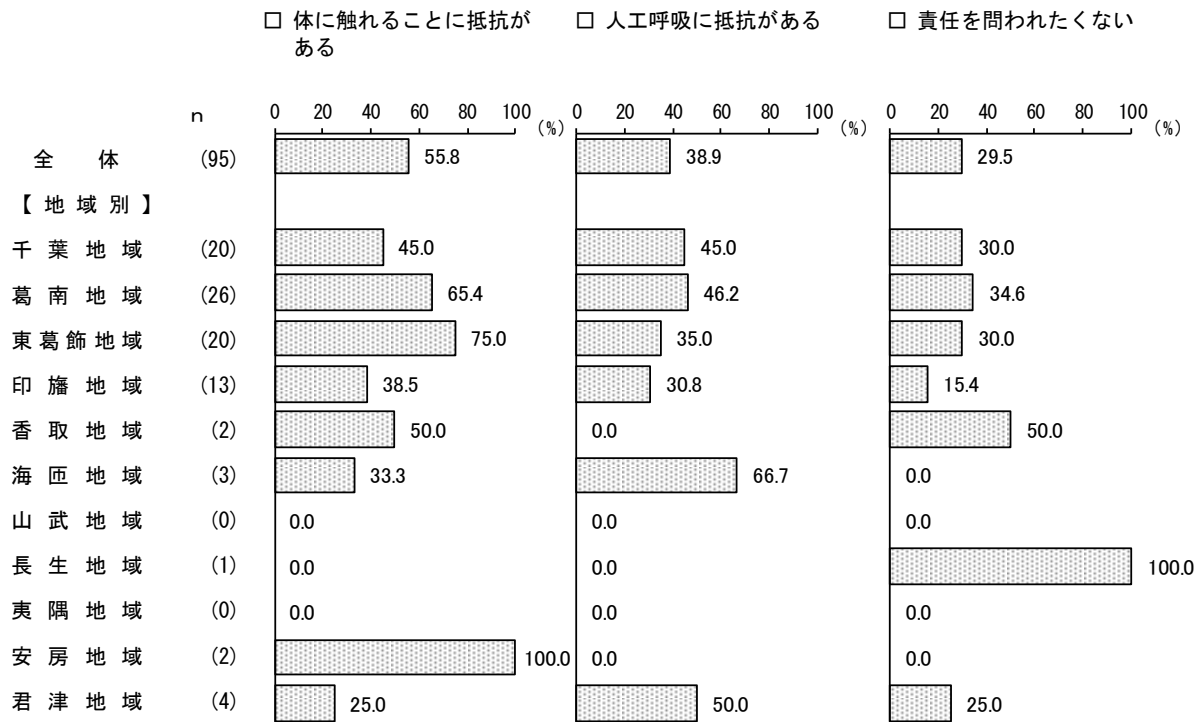
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8 ページ「報告書の見方（5）」を参照）

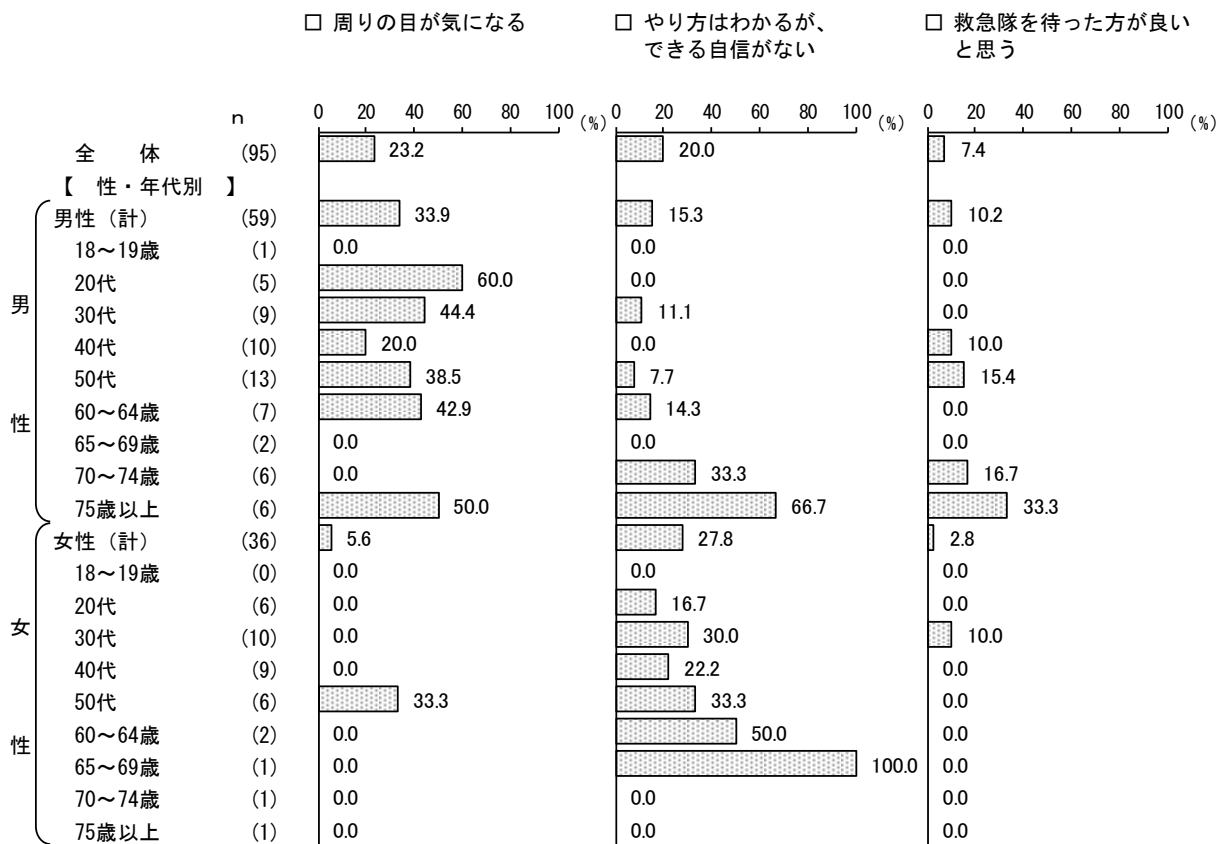
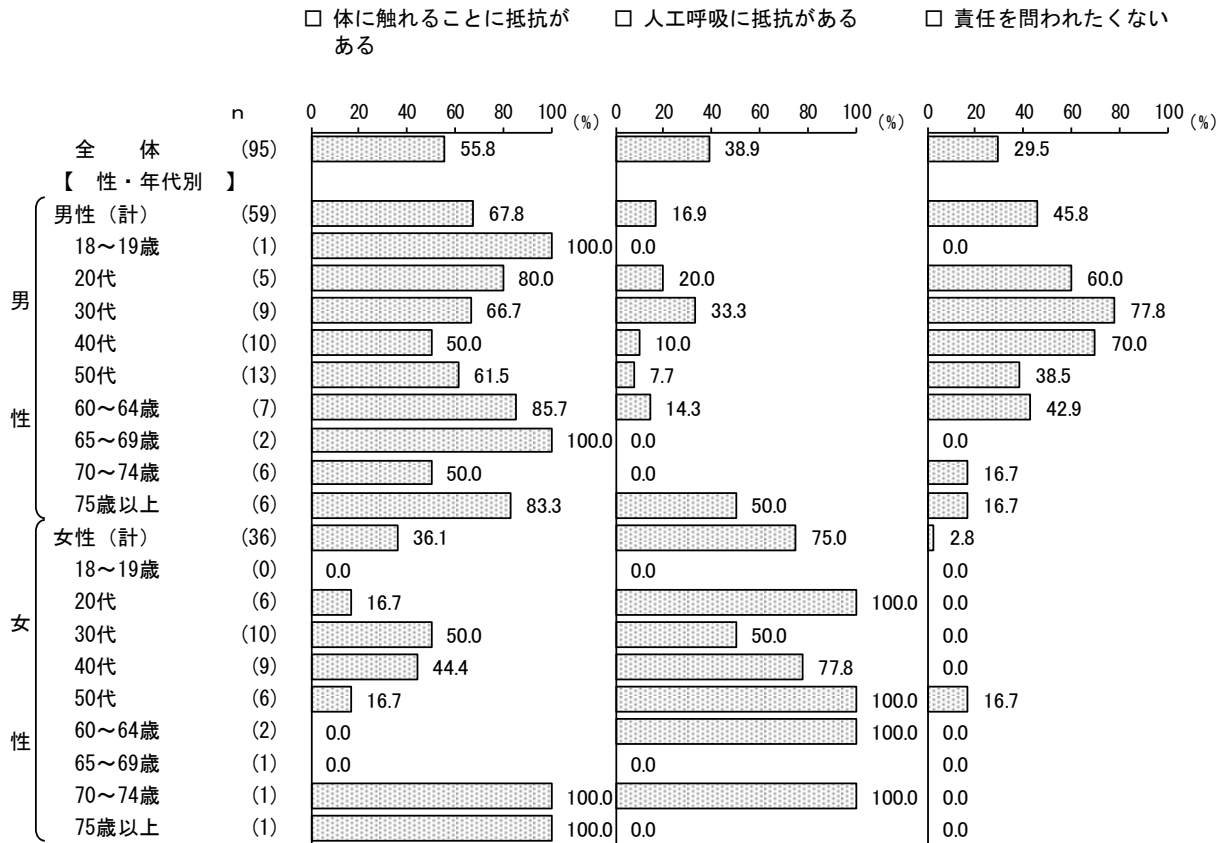
（図表4－8）

[参考] <図表4-8> 異性に対して胸骨圧迫や人工呼吸をできないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位6項目）

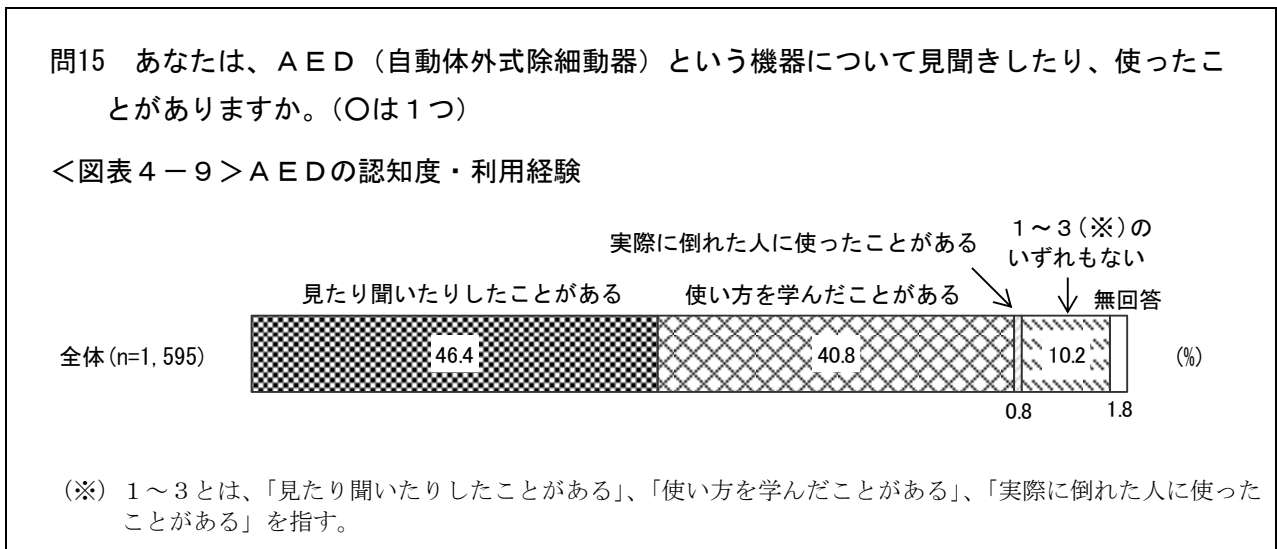


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（2）AEDの認知度・利用経験

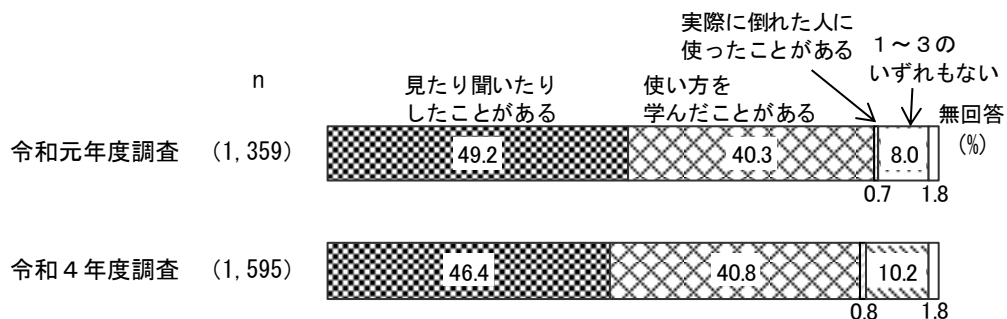
◇「見たり聞いたりしたことがある」が4割台半ば



AED（自動体外式除細動器）について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（46.4%）が4割台半ば、「使い方を学んだことがある」（40.8%）が4割となっている。

一方、「1～3のいずれもない」（10.2%）は1割となっている。（図表4-9）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「使い方を学んだことがある」は“印旛地域”（47.8%）が約5割で高くなっている。（図表4-10）

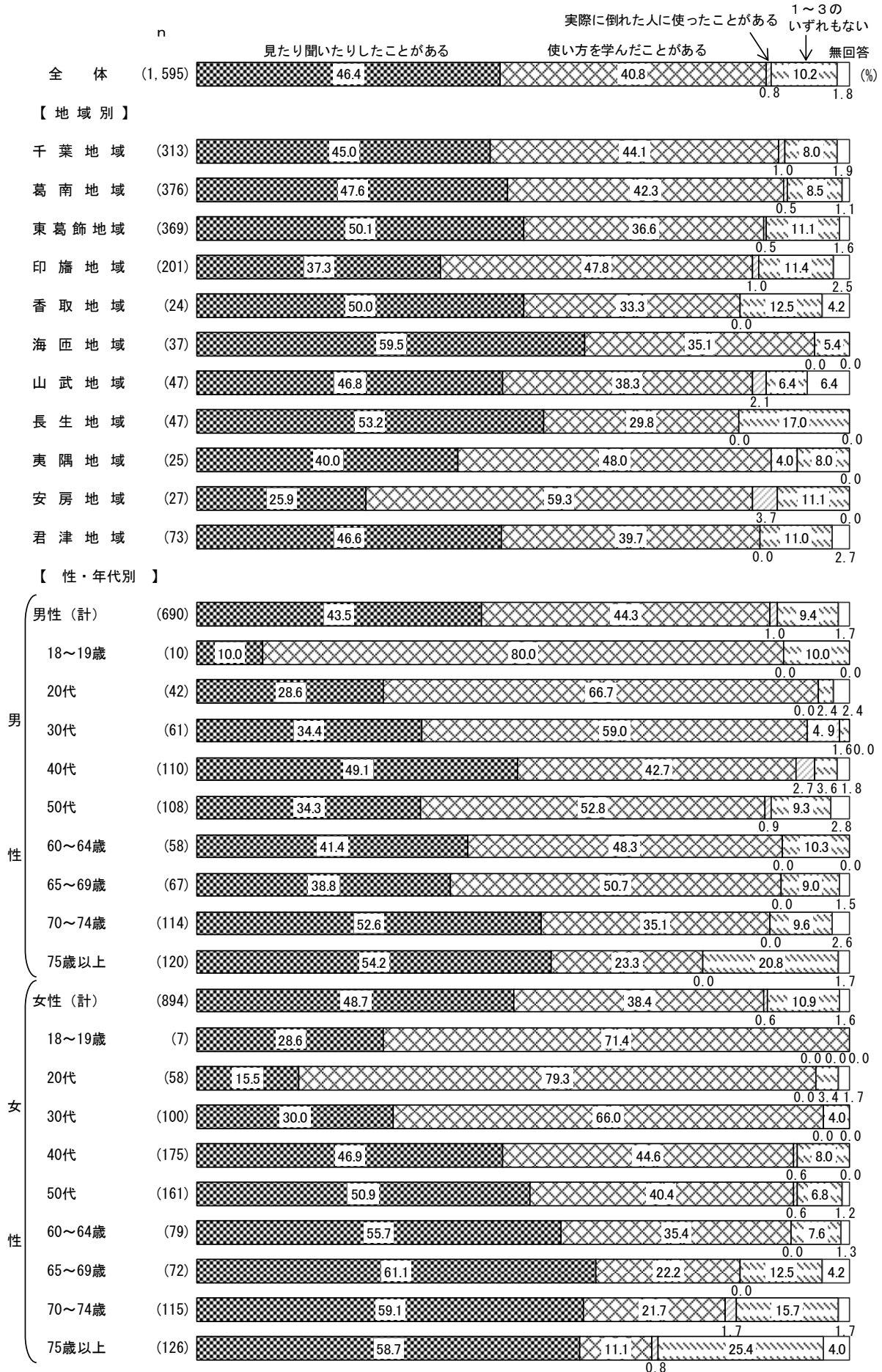
【性・年代別】

性・年代別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は女性の65～69歳（61.1%）が6割を超え、女性の70～74歳（59.1%）と女性の75歳以上（58.7%）が約6割で高くなっている。

「使い方を学んだことがある」は女性の20代（79.3%）が約8割、男性の20代（66.7%）と女性の30代（66.0%）が6割台半ば、男性の30代（59.0%）が約6割、男性の50代（52.8%）が5割を超えて高くなっている。

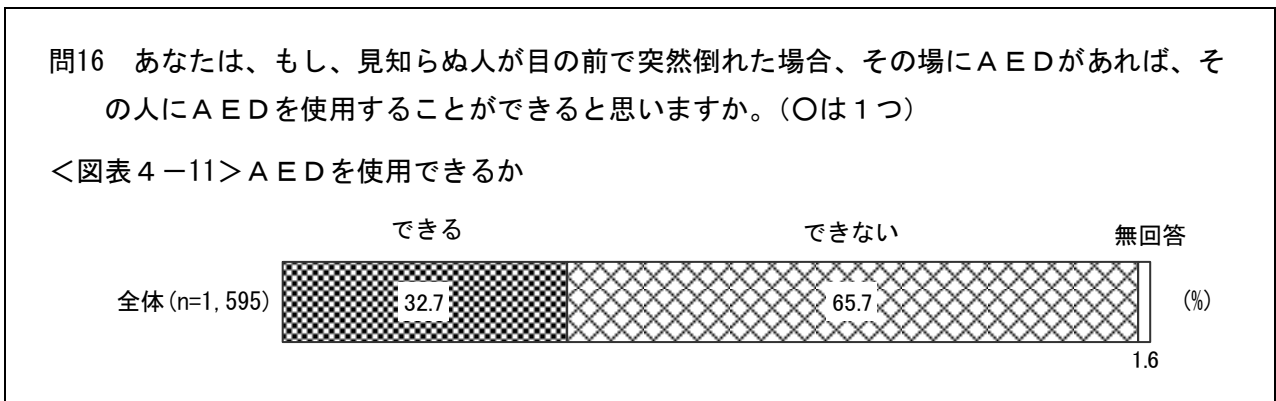
「1～3のいずれもない」は女性の75歳以上（25.4%）が2割台半ば、男性の75歳以上（20.8%）が2割、女性の70～74歳（15.7%）が1割台半ばと高くなっている。（図表4-10）

<図表4-10> AEDの認知度・利用経験／地域別、性・年代別



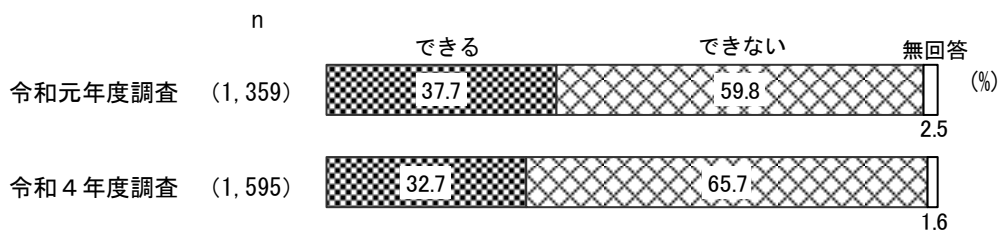
（3）AEDを使用できるか

◇「できる」が3割を超える



AEDを使用できるか聞いたところ、「できる」(32.7%)が3割を超えている。一方、「できない」(65.7%)は6割台半ばとなっている。(図表4-11)

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、「できない」は“東葛飾地域”(72.1%)が7割を超えて高くなっている。

(図表4-12)

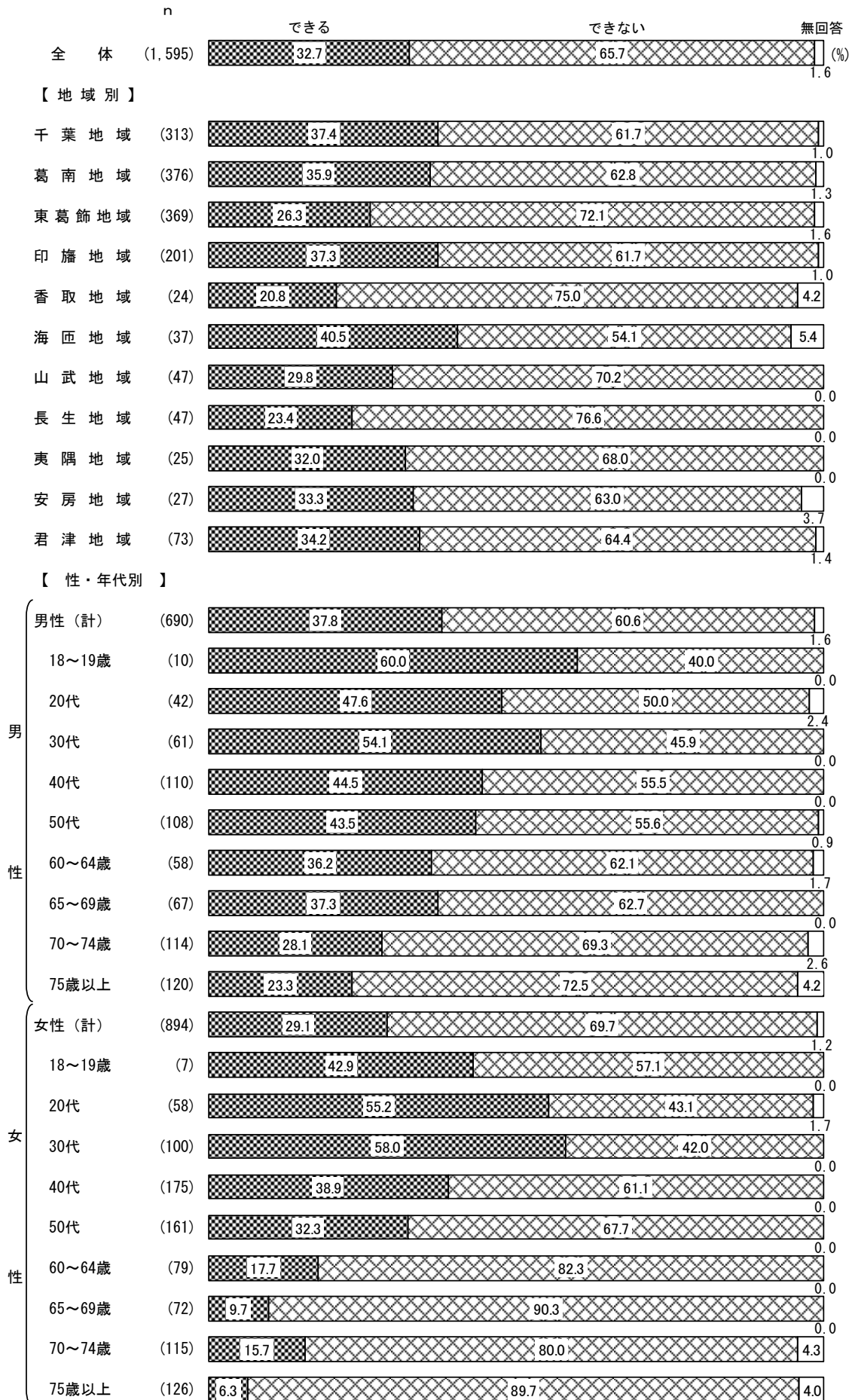
【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の30代(58.0%)が約6割、女性の20代(55.2%)と男性の30代(54.1%)が5割台半ば、男性の20代(47.6%)が約5割、男性の40代(44.5%)と男性の50代(43.5%)が4割台半ばと高くなっている。

一方、「できない」は女性の65～69歳(90.3%)が9割、女性の75歳以上(89.7%)が約9割、女性の60～64歳(82.3%)が8割を超え、女性の70～74歳(80.0%)が8割で高くなっている。

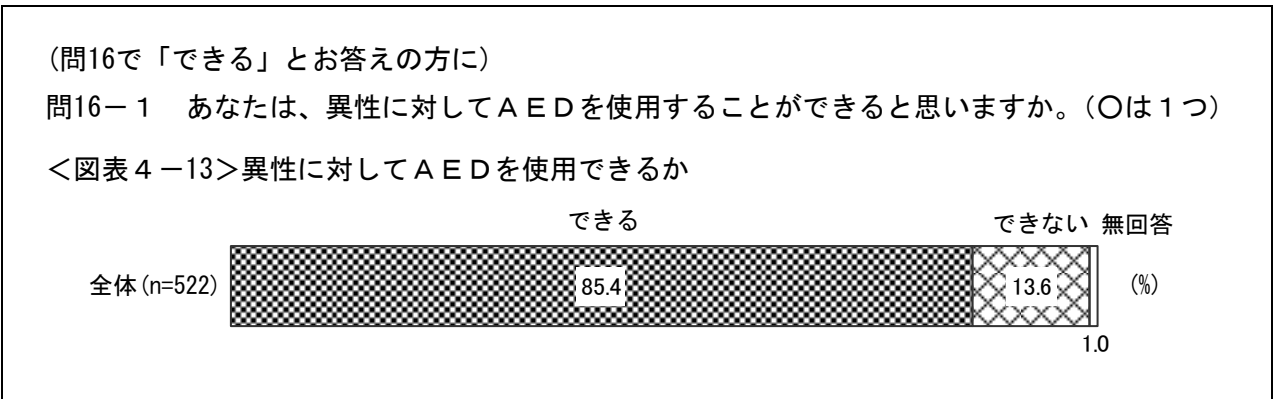
(図表4-12)

<図表4-12> AEDを使用できるか／地域別、性・年代別



（3-1）異性に対してAEDを使用できるか

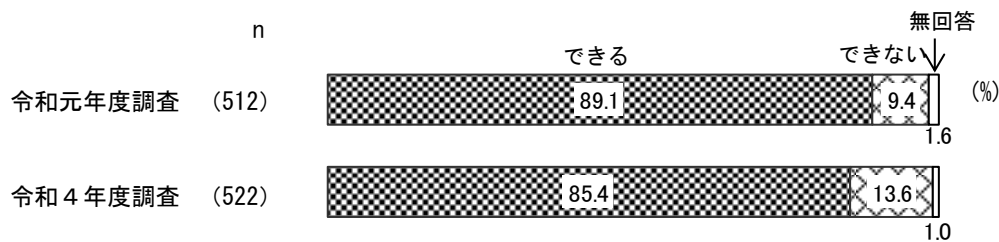
◇「できる」が8割台半ば



「AEDを使用できる」と回答した522人に、異性に対しAEDを使用できるか聞いたところ、「できる」（85.4%）が8割台半ばとなっている。

一方、「できない」（13.6%）は1割台半ばとなっている。（図表4-13）

〔参考〕令和元年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

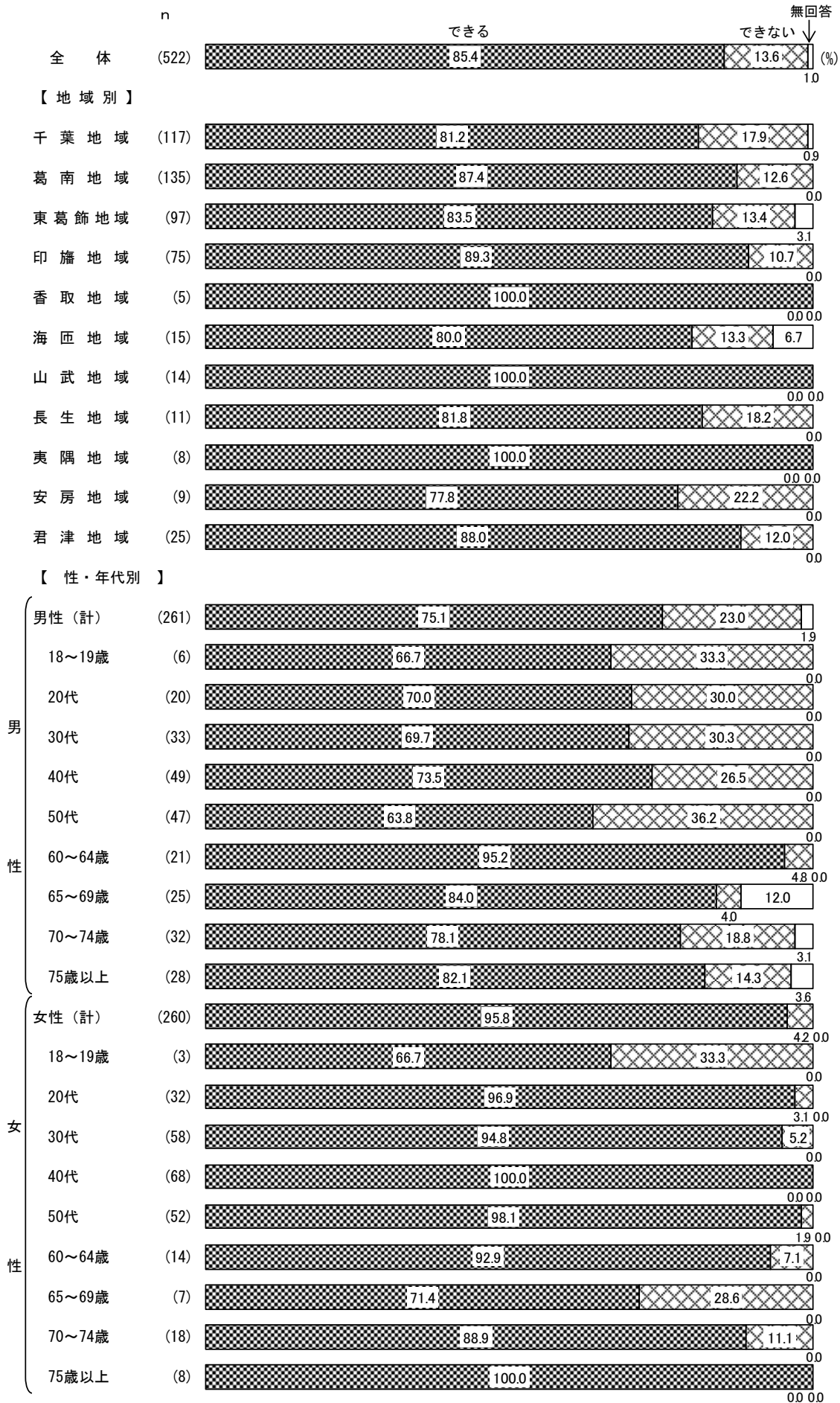
地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表4-14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できる」は女性の40代（100.0%）が10割、女性の50代（98.1%）が約10割、女性の30代（94.8%）が9割台半ばと高くなっている。

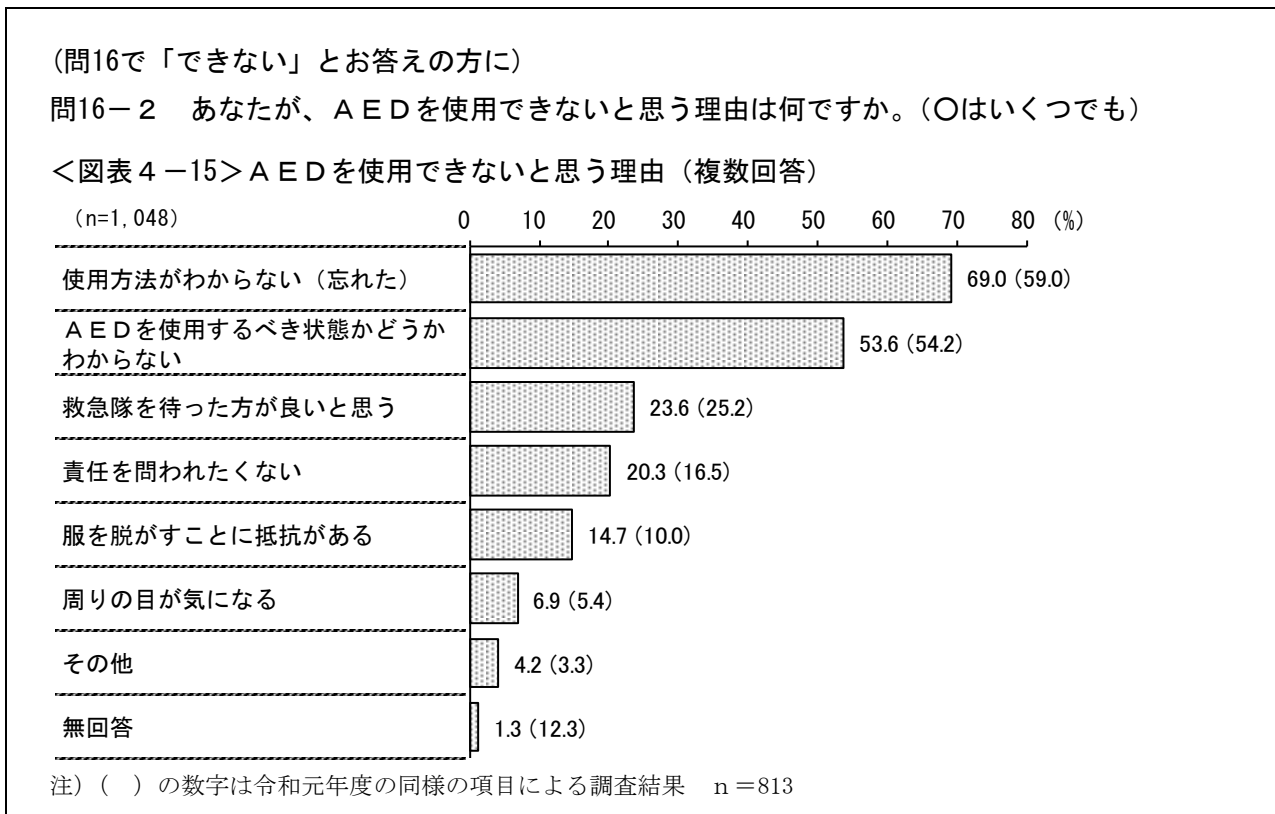
一方、「できない」は男性の50代（36.2%）が3割台半ば、男性の30代（30.3%）と男性の20代（30.0%）が3割、男性の40代（26.5%）が2割台半ばと高くなっている。（図表4-14）

<図表4-14>異性に対してAEDを使用できるか／地域別、性・年代別



（3-2）AEDを使用できないと思う理由

◇「使用方法がわからない（忘れた）」が約7割



「AEDを使用できない」と回答した1,048人に、その理由を聞いたところ、「使用方法がわからない（忘れた）」（69.0%）が約7割で最も高く、以下、「AEDを使用すべき状態かどうかわからない」（53.6%）、「救急隊を待った方が良いと思う」（23.6%）、「責任を問われたくない」（20.3%）と続く。（図表4-15）

【地域別】

地域別にみると、「使用方法がわからない（忘れた）」は“葛南地域”（75.4%）が7割台半ばと高くなっている。（図表4-16）

【性・年代別】

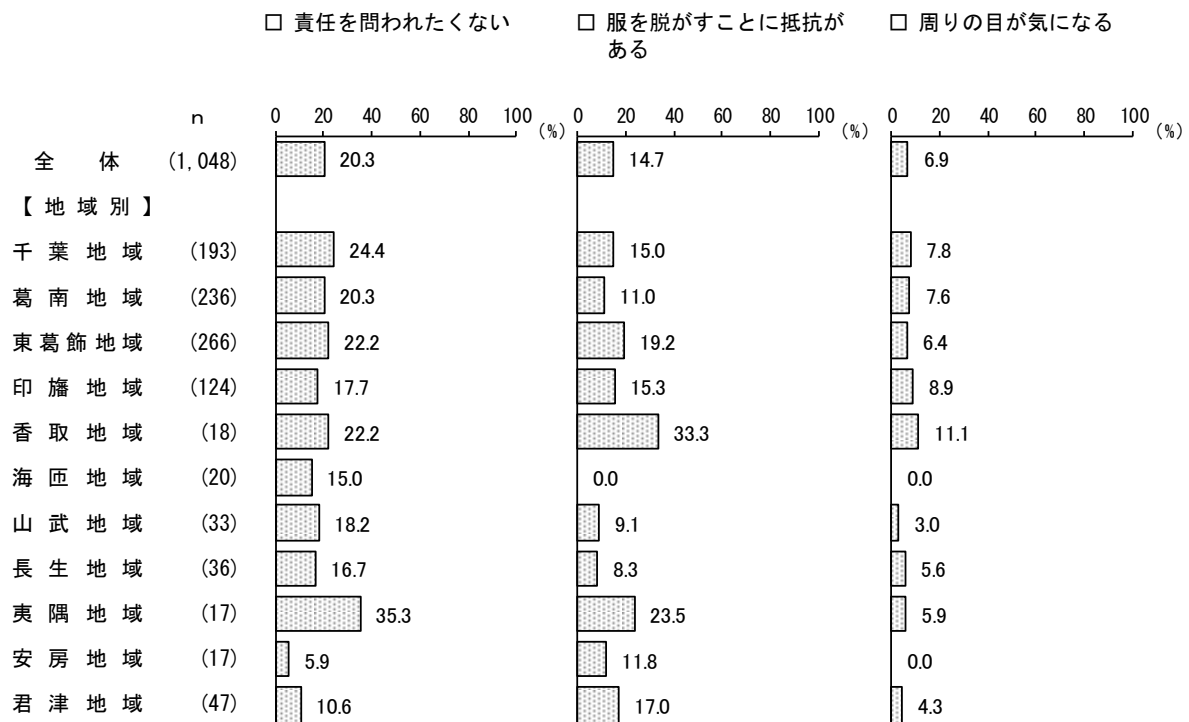
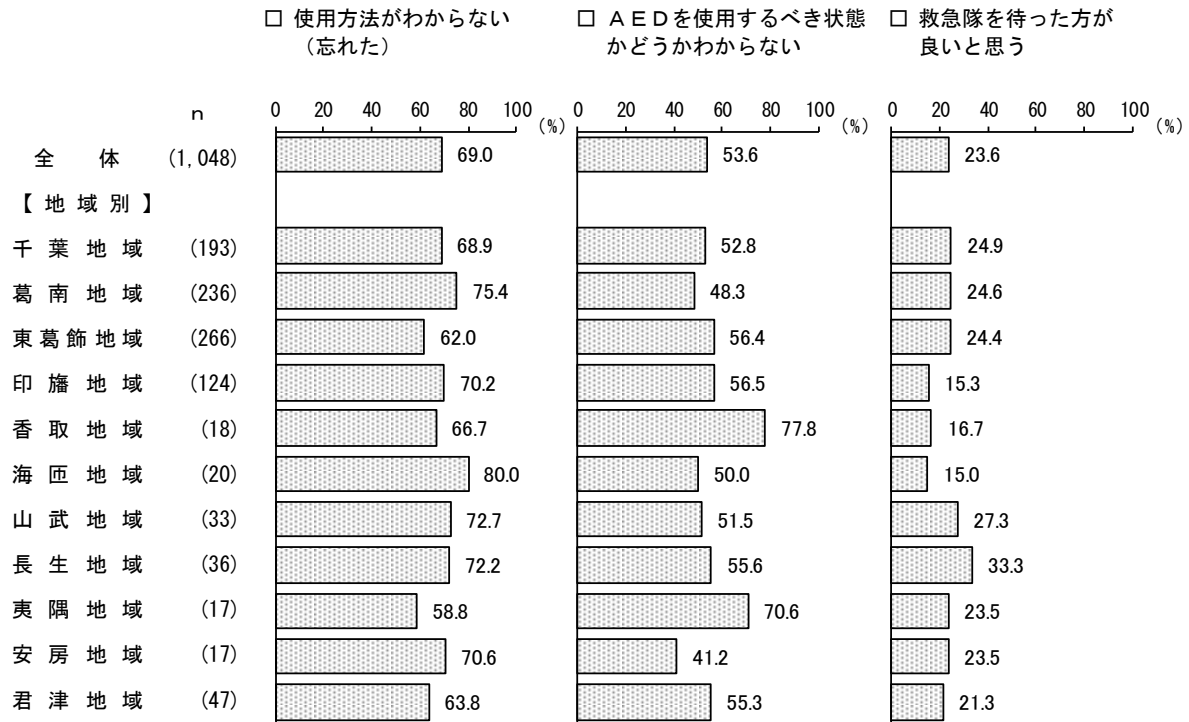
性・年代別にみると、「使用方法がわからない（忘れた）」は女性の70～74歳（78.3%）が約8割で高くなっている。

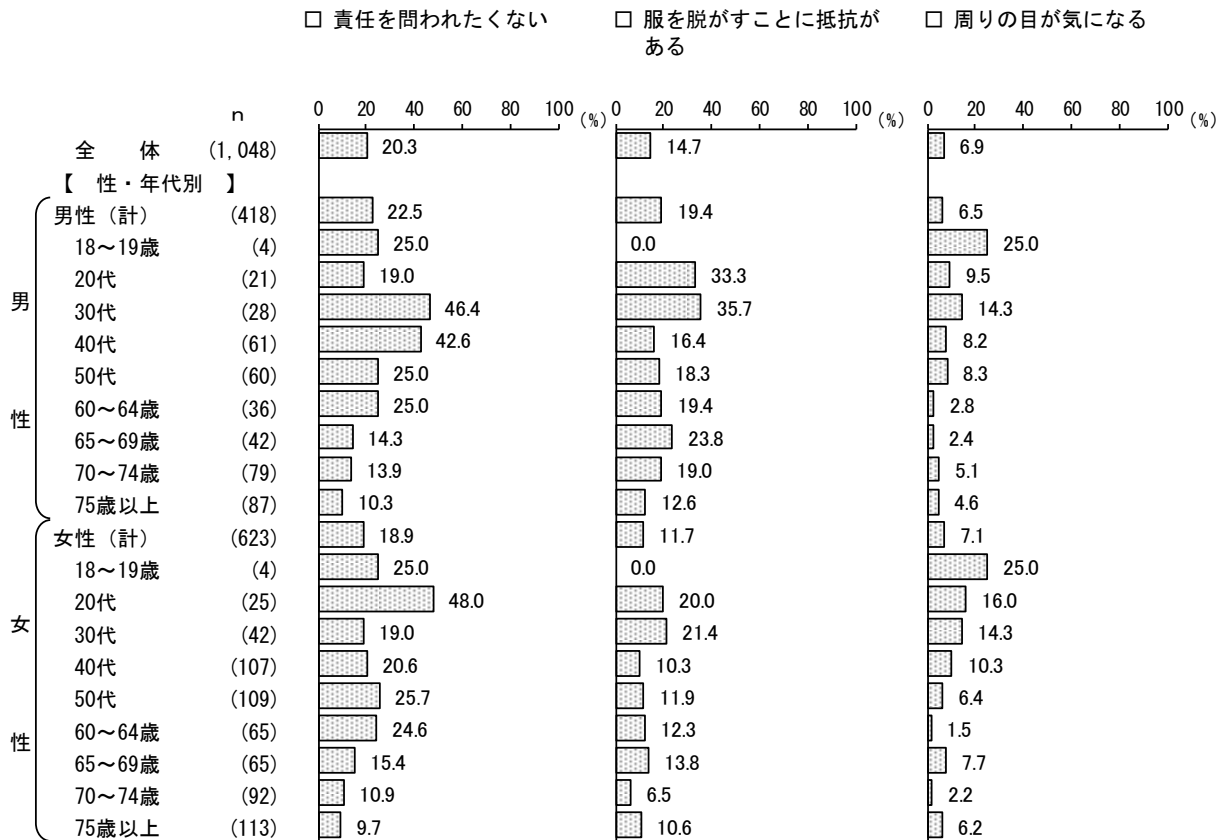
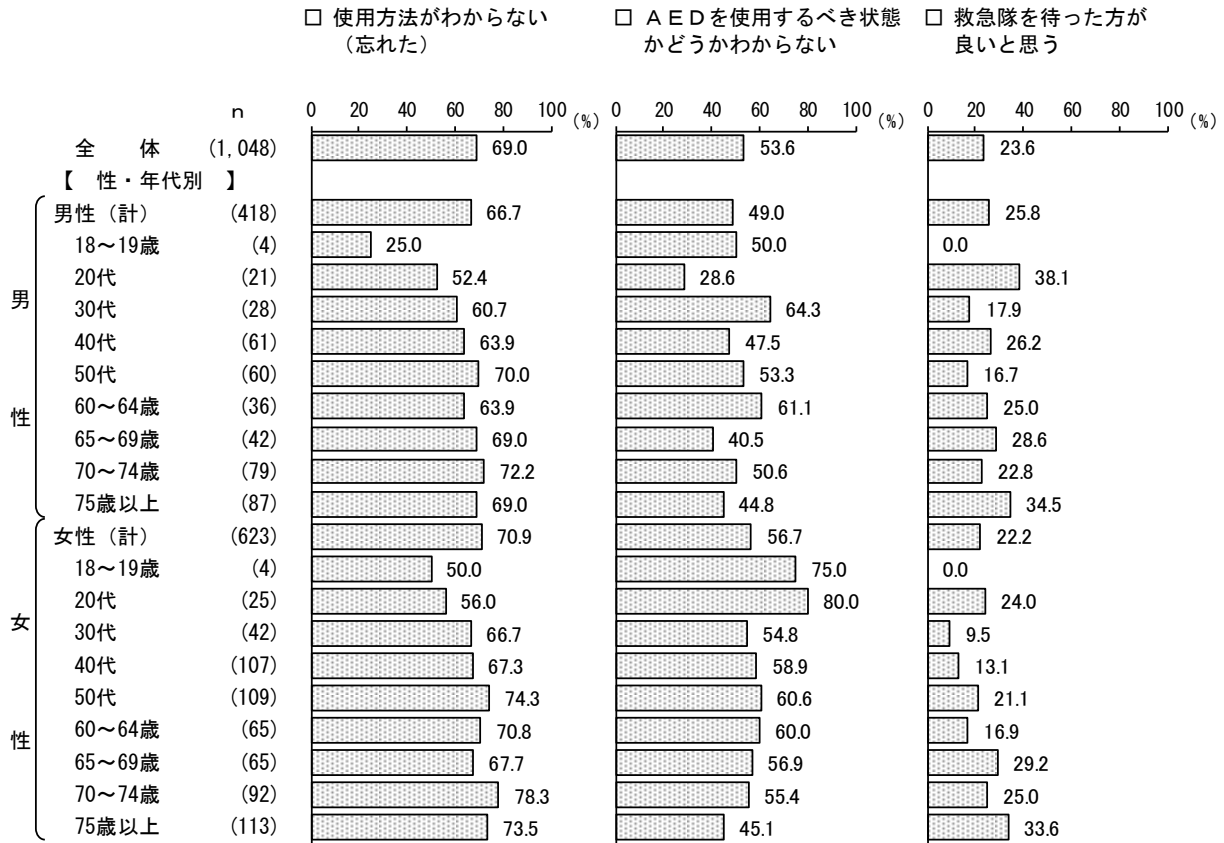
「救急隊を待った方が良いと思う」は男性の75歳以上（34.5%）と女性の75歳以上（33.6%）が3割台半ばと高くなっている。

「責任を問われたくない」は男性の40代（42.6%）が4割を超えて高くなっている。

（図表4-16）

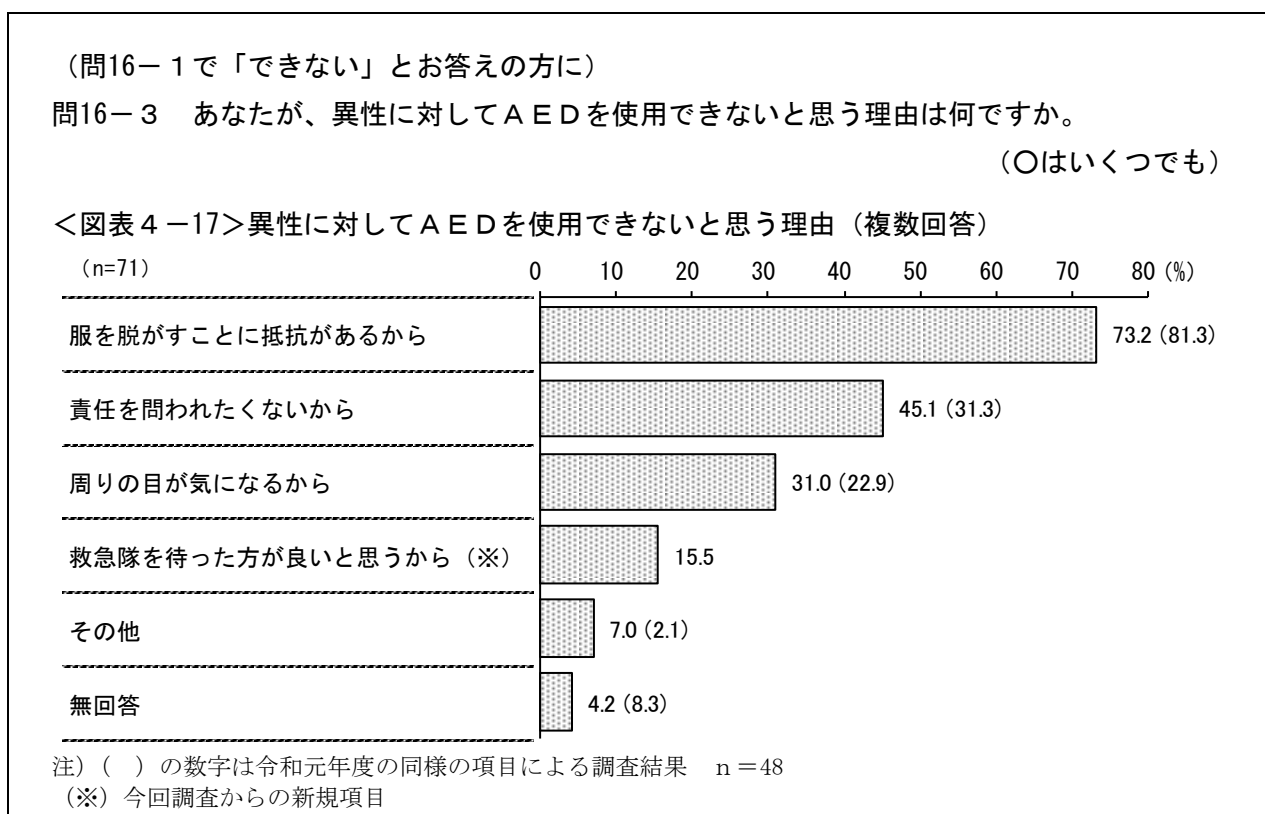
<図表4-16> AEDを使用できないと思う理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（3-3）異性に対してAEDを使用できないと思う理由

◇「服を脱がすことに抵抗があるから」が7割を超える



「異性に対してAEDを使用できない」と回答した71人に、その理由を聞いたところ、「服を脱がすことに抵抗があるから」（73.2%）が7割を超えて最も高く、以下、「責任を問われたくないから」（45.1%）、「周りの目が気になるから」（31.0%）と続く。（図表4-17）

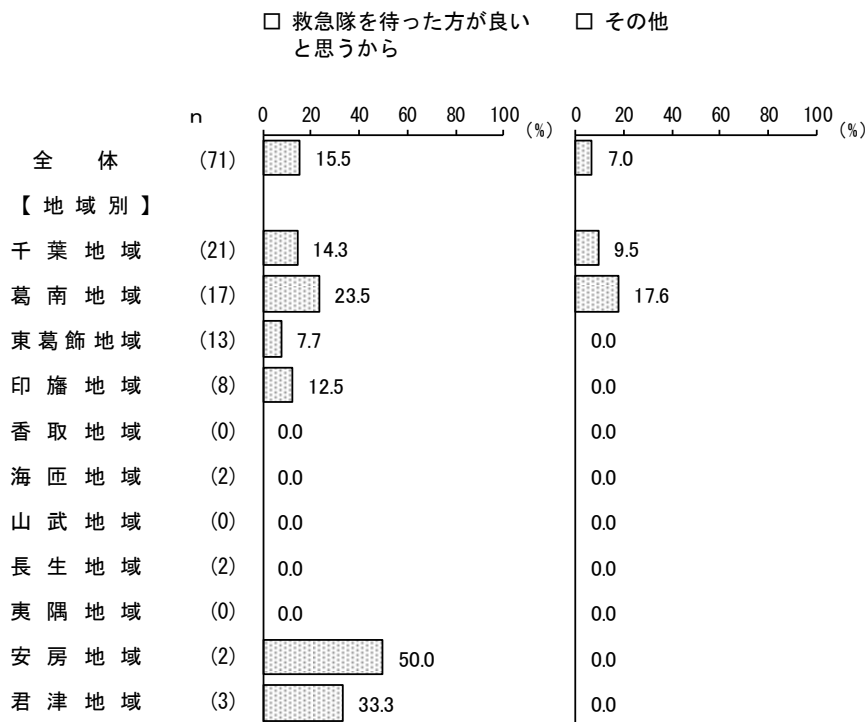
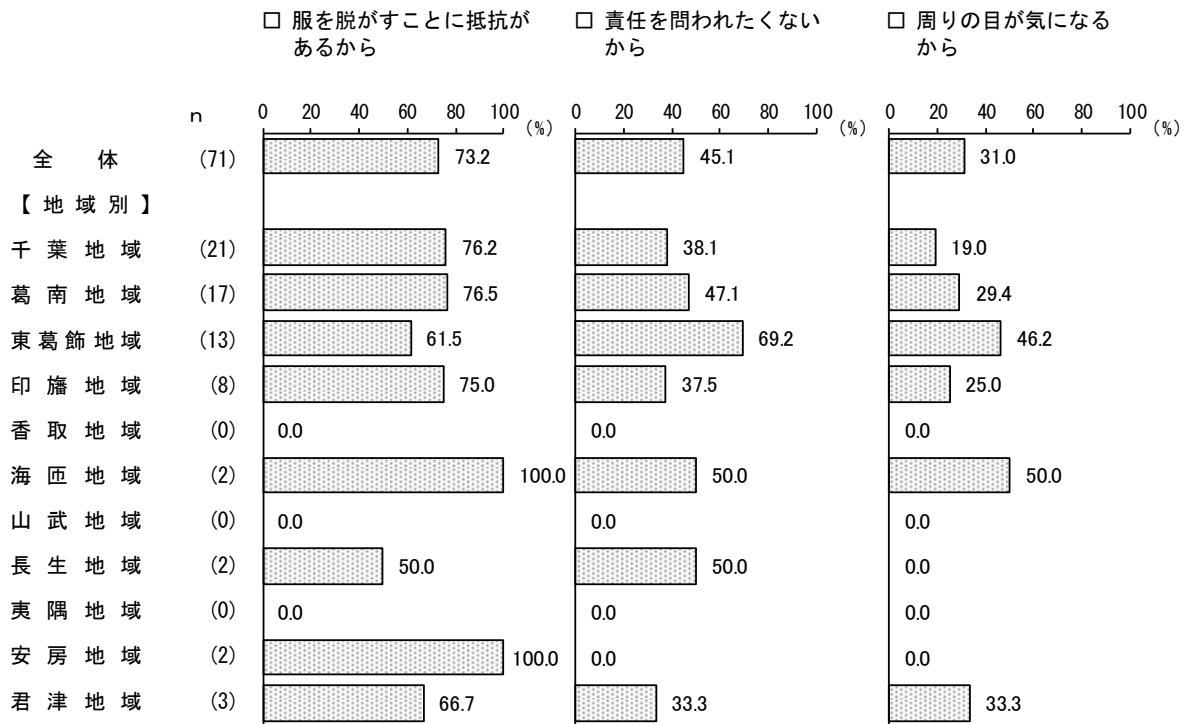
※サンプル数が少ないため、【地域別】及び【性・年代別】における属性の分析は触れていない。

（8ページ「報告書の見方（5）」を参照）

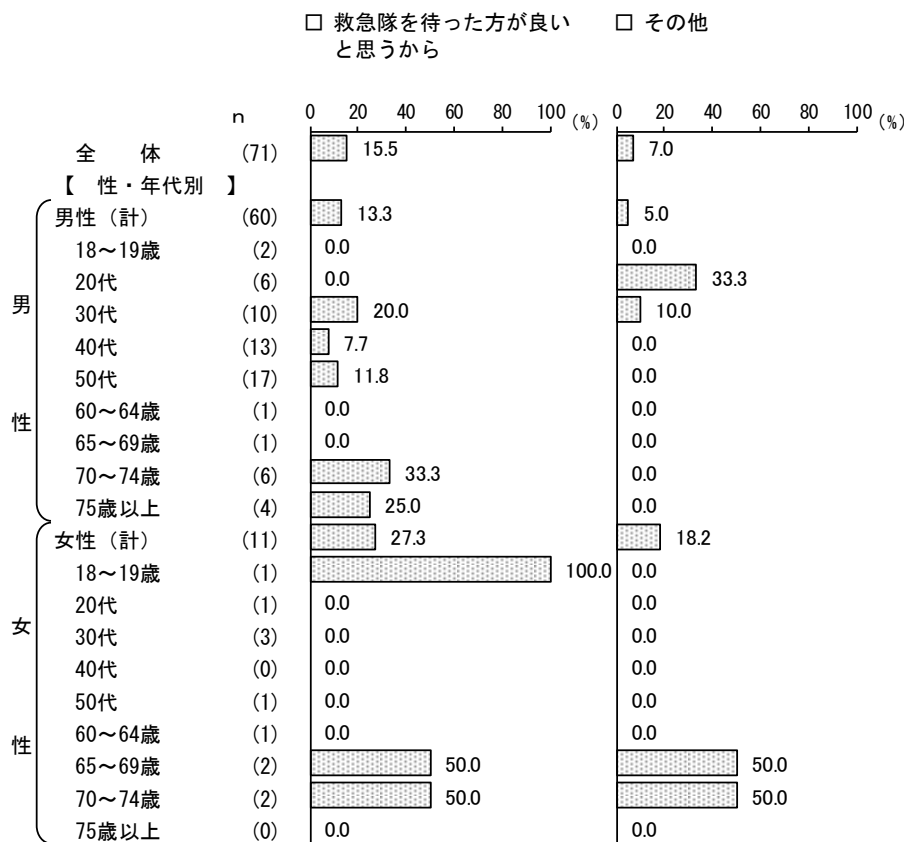
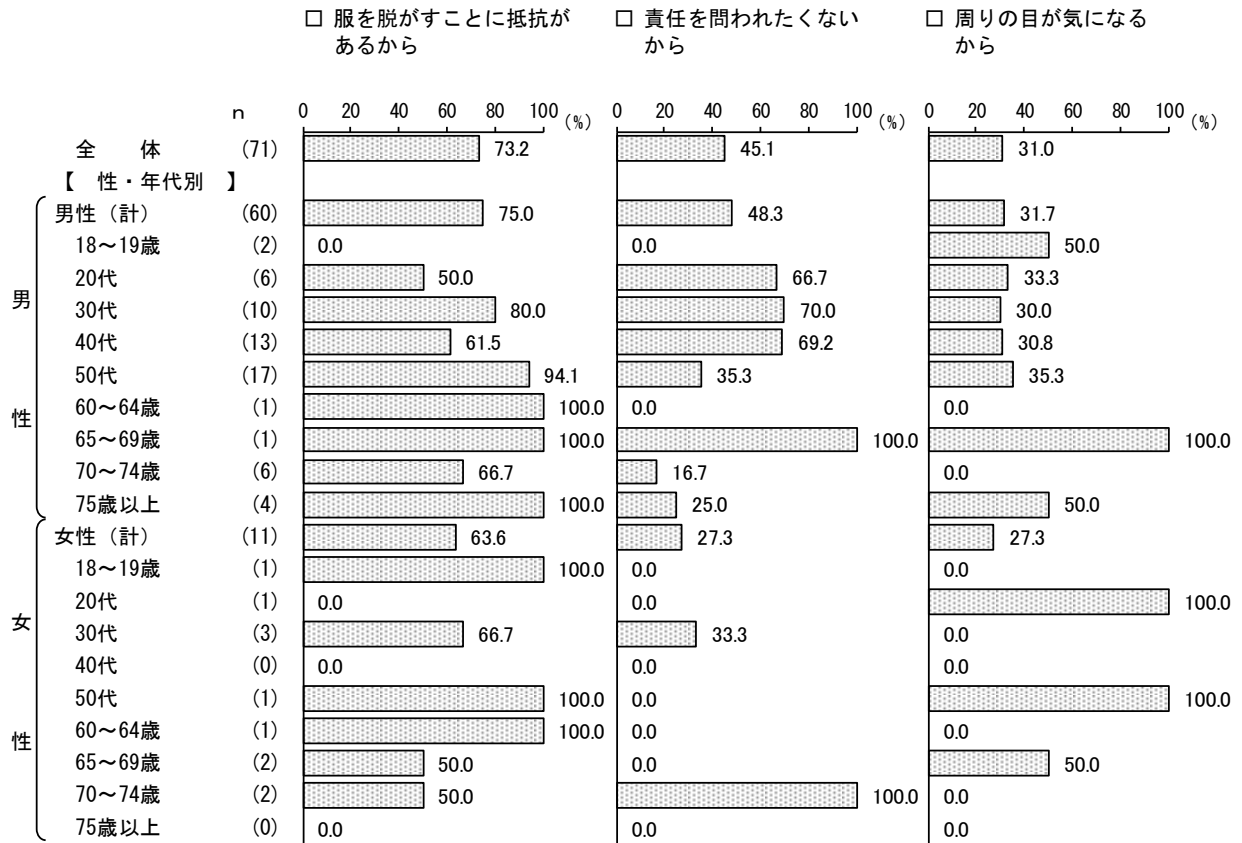
（図表4-18）

[参考] <図表4-18> 異性に対してAEDを使用できないと思う理由（複数回答）

／地域別、性・年代別（上位5項目）

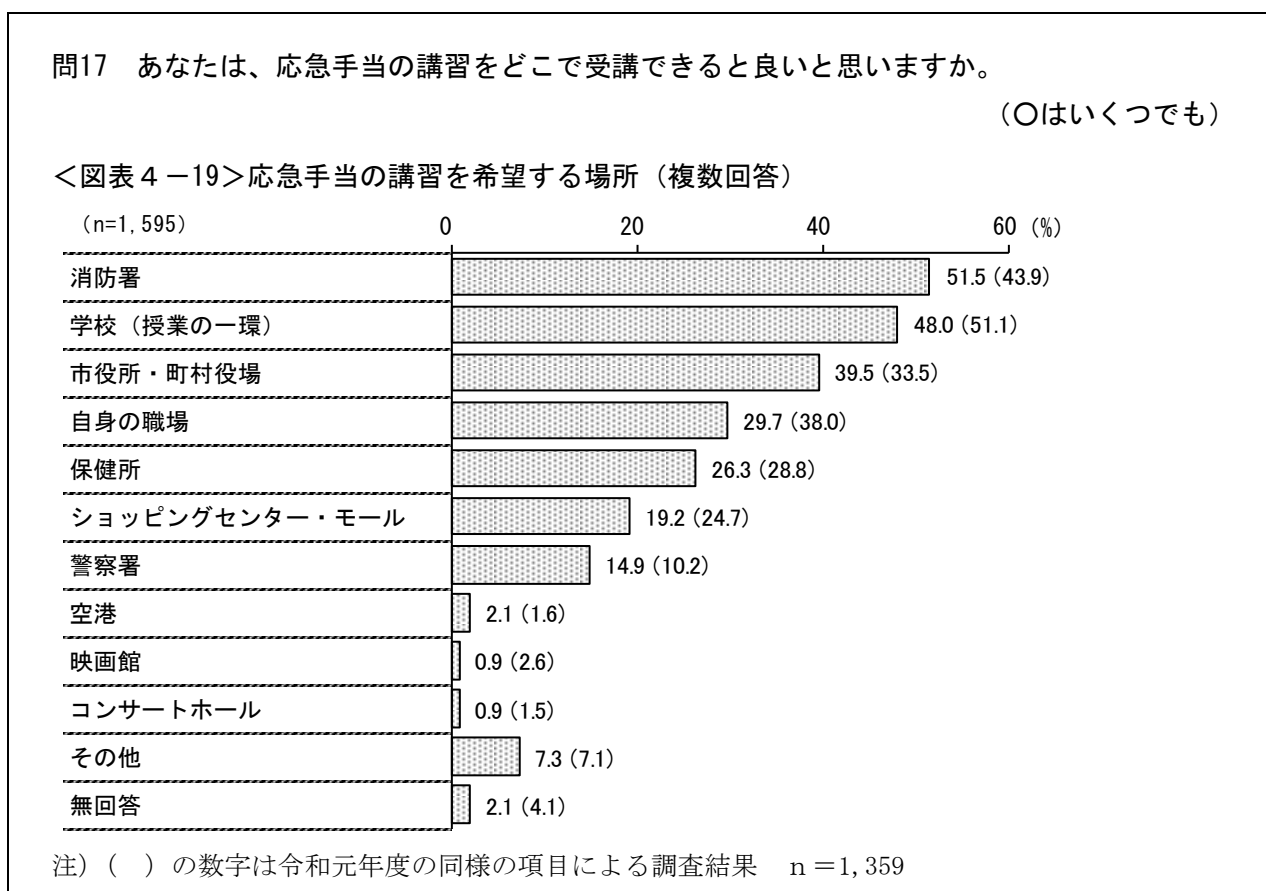


第64回県政に関する世論調査（R4年度）



（４）応急手当の講習を希望する場所

◇「消防署」が5割を超える



応急手当の講習を希望する場所を聞いたところ、「消防署」（51.5%）が5割を超えて最も高く、以下、「学校（授業の一環）」（48.0%）、「市役所・町村役場」（39.5%）、「自身の職場」（29.7%）と続く。（図表4-19）

【地域別】

地域別にみると、「学校（授業の一環）」は“千葉地域”（53.7%）が5割台半ばと高くなっている。
（図表4-20）

【性・年代別】

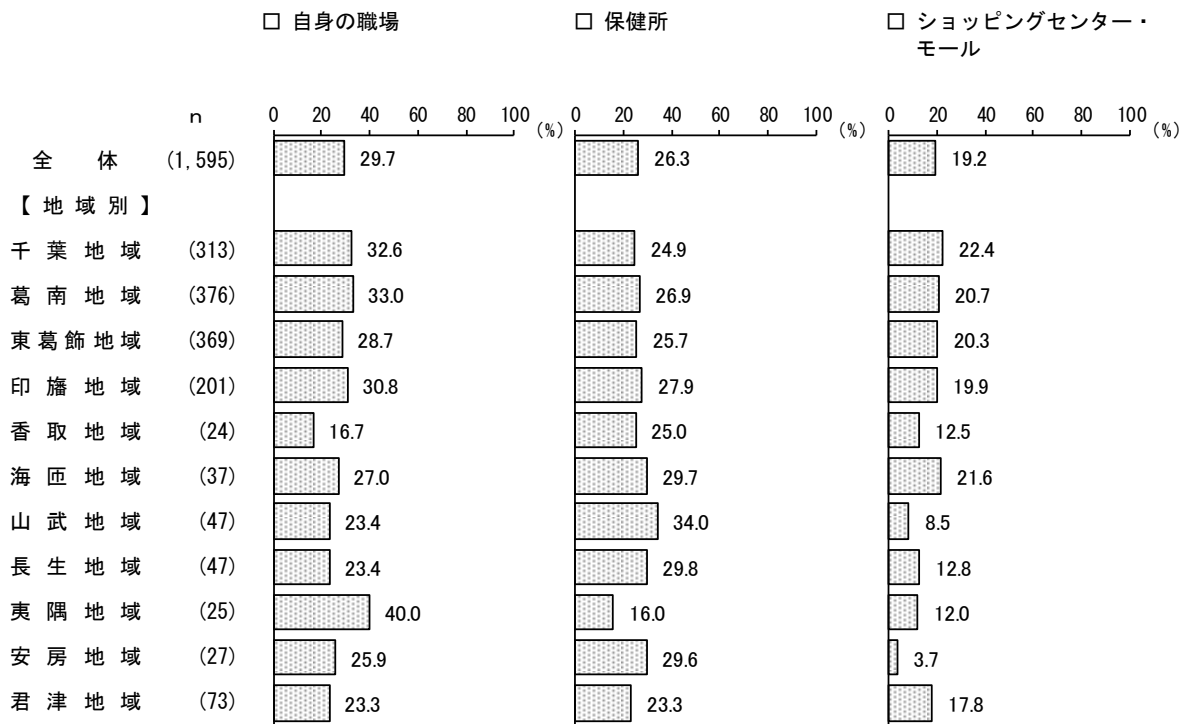
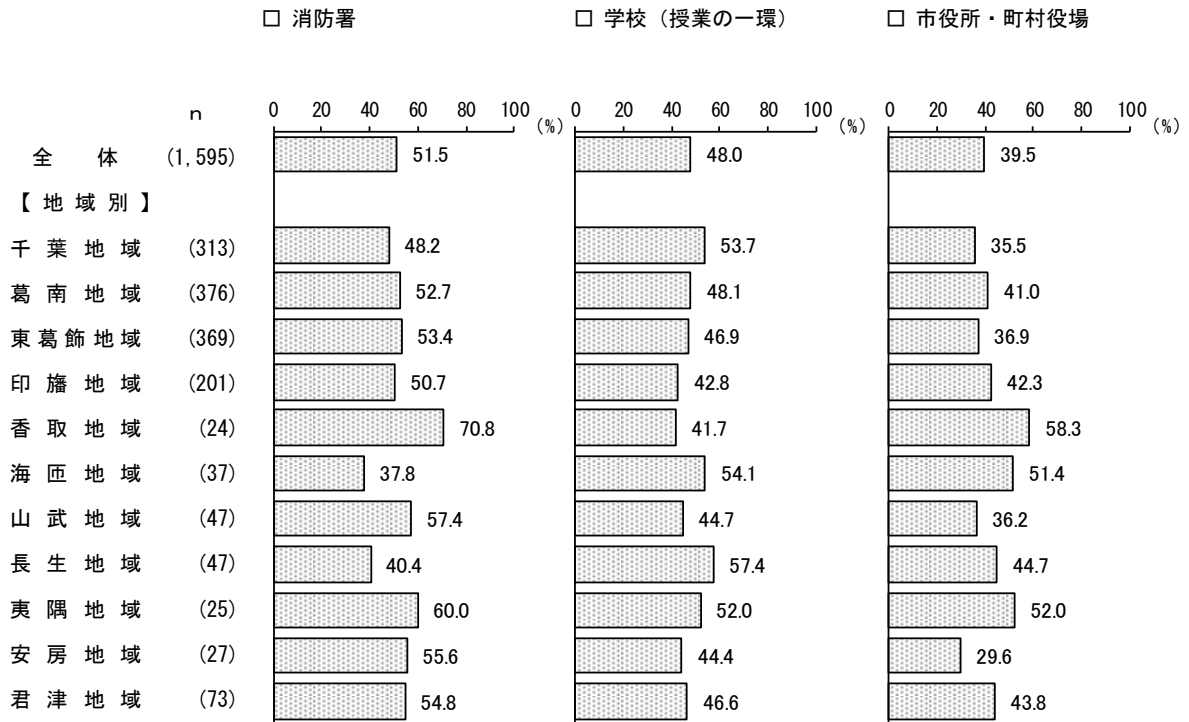
性・年代別にみると、「学校（授業の一環）」は女性の20代（84.5%）が8割台半ば、女性の30代（67.0%）が約7割、男性の20代（64.3%）が6割台半ば、女性の40代（58.3%）が約6割、女性の50代（55.3%）が5割台半ばと高くなっている。

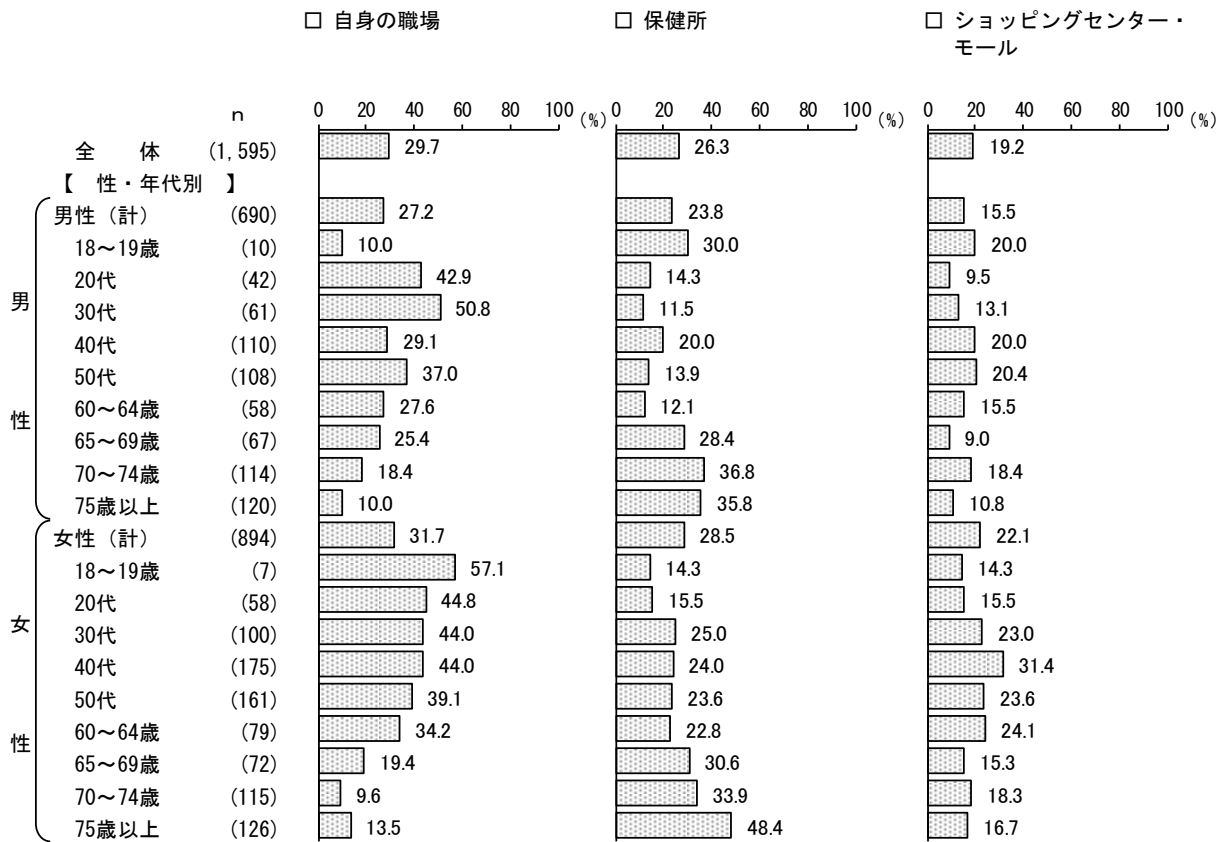
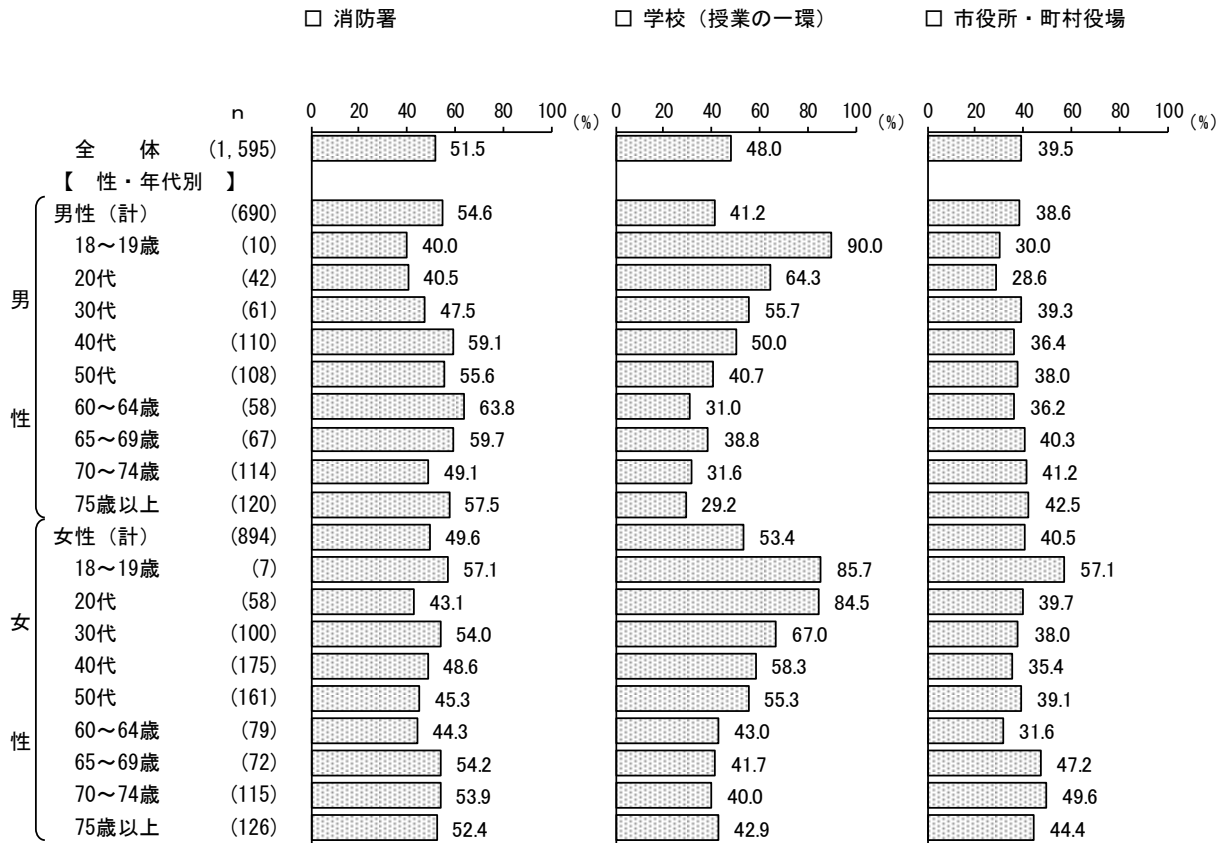
「市役所・町村役場」は女性の70～74歳（49.6%）が約5割で高くなっている。

「自身の職場」は男性の30代（50.8%）が5割、女性の20代（44.8%）、女性の30代（44.0%）、女性の40代（44.0%）が4割台半ば、女性の50代（39.1%）が約4割で高くなっている。

（図表4-20）

<図表4-20> 応急手当の講習を希望する場所（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





このほかにも、「心肺蘇生法等について」や問14～問17について、ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、168人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■「心肺蘇生法等について」の自由回答（抜粋）

○防災訓練で胸骨圧迫やAEDの使用方法について講習を受けたが、実施できるかとなると自信がない。繰り返し講習を受けて馴染むしかないのではないかと思います。

（男性、70～74歳、印旛地域）

○数年前に講習を受講しましたが、いざその機会が来た時に周りの方々が親身にサポートしてくれるかが気になります。一人では、対応できない可能性が高いと感じています。あと、近くにAEDがあるかわからない場合が多いので、無い場合の対処に不安に感じます。

（男性、50代、印旛地域）

○中・高生レベルでの使用対応は可能であると思うので、学校教育の一環として取り込み、地道に手堅く、着実に指導する事が必要。長い目で見れば、最終的には全員が応急処置ができるようになる。

（男性、70～74歳、印旛地域）

○正直、他人の体に触れるだけでも抵抗があり、ましてやAED等を使うなどなおさらである。昨今何かと責任問題が発生しやすい状況の中で蘇生ができるか不安である。

（男性、50代、葛南地域）

○特に女性に対してAED使用時に服を脱がせる事で訴えられないか心配で手が出せません。AED、心肺蘇生法のやり方講習を受けたことはありますが、遠い記憶なのでいざ目の前に倒れている人がいると緊張してできないと思います。一年くらいのスパンで定期的に体験できる機会があると良いのかなと思います。

（男性、30代、東葛飾地域）

○AEDや心肺蘇生法については職場で講習を受けていますが、正直女性に対してはやりたくないです。実際にその場に出くわせばやるしか無いと思いますが、現場に女性がいれば女性が積極的にやって欲しいです。

（男性、50代、千葉地域）

○AEDの使い方を学ぶ手段がもう少しほしい。たまに使い方のイベント等があるがスケジュールが合わなかったりして参加することができていない。個人的に知る手段があれば良いと思う。

（女性、30代、葛南地域）

○応急手定の講習は実際に体験できるように年1回程度学校や職場等で義務にするといいのではないかと思います。

（女性、50代、千葉地域）